yame

八女市内遺跡群８

福岡県八女市新庄・国武所在遺跡の発掘調査報告書

八女市文化財調査報告書　第１１２集

２０１６

八女市教育委員会

yame

八女市内遺跡群８

福岡県八女市新庄・国武所在遺跡の発掘調査報告書

八女市文化財調査報告書　第１１２集

２０１６

八女市教育委員会

序

八女市の西側に位置する新庄・国武地区においては、以前より多くの遺跡の存在が知られており、土器や石器などが多数採取されています。現在においても遺跡や遺物が多数地下に眠っているものと思われ、これらの保存と周知は八女市が取り組まなければならない重要な課題となっています。

当該地区においては、昭和５０年代後半から始まった八女南部地区県営ほ場整備事業を発端とし、これまであまり知られていなかった古代の集落や墳墓が多数発見されており、当該地区の歴史の奥深さを認識するに足る成果が見いだされています。

今回の報告は、平成元年から平成２年に行われた発掘調査について、未報告となっていたものを含め再検討を行いながら、より精度の高い情報を公表することで１７００年程前の先人の暮らしぶりを知っていただくとともに、今現在においても地下に埋蔵されている遺跡に対し、文化財愛護の思いを持っていただくことを目的としております。

この報告書が、今回公表させていただきました遺跡のみならず、市内に数多く点在する文化財を深く理解する一助となり、今まで以上の郷土愛の心を育むことに寄与できるのであるならば幸甚の極みであります。

最後に、当該遺跡の発掘調査に格段のご理解をいただきました関係各位、及び地元の皆様方には並々ならぬご協力と応援をいただきました。深くお礼を申し上げるますとともに、今後の文化財行政につきまして、これまで以上の暖かいご支援を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

平成２８年３月３１日

八女市教育委員会

教育長　西　島　民　生

例　言

1. 本書は、八女市原ノ前遺跡・松本遺跡における発掘調査報告書である。

2. 発掘調査は八女市教育委員会が実施した。

3. 発掘調査で検出した遺構の名称・番号については昭和元年～平成２年の調査時に準じて付している。

4. 本書に使用した現地写真は、発掘調査時のものである。

5. 本書使用の方位については、すべて磁北を基準としている。

6. 本書の執筆、及び編集については主として原ノ前遺跡については永田が、松本遺跡については中川が行った。

7. 本書に関する調査記録、及び出土遺物は現八女市において保管・収蔵している。

本文目次

1　調査の経緯 ・・・

挿図目次

第 1図　周辺遺跡分布図〔1/25,000〕・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
第 2図　原ノ前遺跡　遺跡位置図〔1/2,500〕・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
第 3図　原ノ前遺跡　遺構配置図〔1/200〕・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
第 4図　原ノ前遺跡　1,2,3号竪穴住居(SB-01,02,03)実測図〔1/80〕・・・・・・・・・・・・ 5
第 5図　原ノ前遺跡　1号竪穴住居(SB-01)出土遺物実測図〔1/4〕・・・・・・・・・・・・・ 5
第 6図　原ノ前遺跡　2号竪穴住居(SB-02)出土遺物実測図〔1/4〕・・・・・・・・・・・・・ 6
第 7図　原ノ前遺跡　2号竪穴住居(SB-02)出土遺物実測図〔1/2〕・・・・・・・・・・・・・ 6
第 8図　原ノ前遺跡　4号竪穴住居(SB-04)実測図〔1/40〕・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
第 9図　原ノ前遺跡　4号竪穴住居(SB-04)出土遺物実測図〔1/4〕・・・・・・・・・・・・・ 8
第10図　原ノ前遺跡　5,6,7号竪穴住居(SB-05,06,07)
　　及び1号不明遺構(SX-01)実測図〔1/80〕・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
第11図　原ノ前遺跡　5号竪穴住居(SB-05)出土遺物実測図〔1/4〕・・・・・・・・・・・・・ 9
第12図　原ノ前遺跡　6号竪穴住居(SB-06)出土遺物実測図〔1/4〕・・・・・・・・・・・・・ 9
第13図　原ノ前遺跡　6号竪穴住居(SB-06)出土遺物実測図〔1/1〕・・・・・・・・・・・・・10
第14図　原ノ前遺跡　7号竪穴住居(SB-07)出土遺物実測図〔1/4〕・・・・・・・・・・・・・10
第15図　原ノ前遺跡　8号竪穴住居(SB-08)実測図〔1/40〕・・・・・・・・・・・・・・・・・10
第16図　原ノ前遺跡　9号竪穴住居(SB-09)実測図〔1/80〕・・・・・・・・・・・・・・・・・11
第17図　原ノ前遺跡　9号竪穴住居(SB-09)出土遺物実測図〔1/4〕・・・・・・・・・・・・・12
第18図　原ノ前遺跡　1号土坑(SK-01)実測図〔1/40〕・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
第19図　原ノ前遺跡　1号土坑(SK-01)出土遺物実測図〔1/4〕・・・・・・・・・・・・・・・13
第20図　原ノ前遺跡　2号土坑(SK-02)実測図〔1/40〕・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
第21図　原ノ前遺跡　3号土坑(SK-03)実測図〔1/40〕・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
第22図　原ノ前遺跡　4号土坑(SK-04)実測図〔1/40〕・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
第23図　原ノ前遺跡　1号溝状遺構(SD-01)実測図〔1/40〕・・・・・・・・・・・・・・・・・13
第24図　原ノ前遺跡　1号溝状遺構(SD-01)出土遺物実測図〔1/4〕・・・・・・・・・・・・・14
第25図　原ノ前遺跡　1号不明遺構(SX-01)実測図〔1/40〕・・・・・・・・・・・・・・・・・14
第26図　原ノ前遺跡　2号不明遺構(SX-02)実測図〔1/80〕・・・・・・・・・・・・・・・・・14
第27図　原ノ前遺跡　2号不明遺構(SX-02)出土遺物実測図〔1/4〕・・・・・・・・・・・・・15
第28図　松本遺跡位置図〔1/5,000〕・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
第29図　松本遺跡遺構配置図〔1/150〕・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
第30図　松本遺跡　1,2号竪穴住居(SB01・02)実測図〔1/80〕・・・・・・・・・・・・・・・21
第31図　松本遺跡　3号竪穴住居(SB03)実測図〔1/80〕・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
第32図　松本遺跡　4号竪穴住居(SB04)実測図〔1/80〕・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
第33図　松本遺跡　5号掘立柱建物(SB05)実測図〔1/80〕・・・・・・・・・・・・・・・・・22

第34図　松本遺跡　6号掘立柱建物(SB06)実測図〔1/80〕・・・・・・・・・・・・・・・・22
第35図　松本遺跡　7号掘立柱建物(SB07)実測図〔1/80〕・・・・・・・・・・・・・・・・22
第36図　松本遺跡　8号掘立柱建物(SB08)実測図〔1/80〕・・・・・・・・・・・・・・・・23
第37図　松本遺跡　9号掘立柱建物(SB09)実測図〔1/80〕・・・・・・・・・・・・・・・・23
第38図　松本遺跡　10号掘立柱建物(SB10)実測図〔1/80〕・・・・・・・・・・・・・・・・23
第39図　松本遺跡　11号掘立柱建物(SB11)実測図〔1/80〕・・・・・・・・・・・・・・・・23
第40図　松本遺跡　12号掘立柱建物(SB12)実測図〔1/80〕・・・・・・・・・・・・・・・・23
第41図　松本遺跡　13号掘立柱建物(SB13)実測図〔1/80〕・・・・・・・・・・・・・・・・25
第42図　松本遺跡　14号掘立柱建物(SB14)実測図〔1/80〕・・・・・・・・・・・・・・・・25
第43図　松本遺跡　15号掘立柱建物(SB15)実測図〔1/80〕・・・・・・・・・・・・・・・・25
第44図　松本遺跡　16号掘立柱建物(SB16)実測図〔1/80〕・・・・・・・・・・・・・・・・25
第45図　松本遺跡　17号掘立柱建物(SB17)実測図〔1/80〕・・・・・・・・・・・・・・・・25
第46図　松本遺跡　1号不明遺構(SX01)実測図・土層断面図〔1/80〕・・・・・・・・・・・・26
第47図　松本遺跡　1号溝状遺構(SD01)土層断面図〔1/80〕・・・・・・・・・・・・・・・・26
第48図　松本遺跡　1～4号竪穴住居(SB01～04)・11号掘立柱建物(SB11)出土土器実測図〔1/4〕
・・27
第49図　松本遺跡　13,14号掘立柱建物(SB13,14)・1号不明遺構(SX01)・ピット出土土器実測図
〔1/4〕・・28
第50図　松本遺跡　3,4号竪穴住居(SB03,04)出土石製品実測図〔1/3〕・・・・・・・・・・28
第51図　松本遺跡　4号竪穴住居(SB04)出土石製品実測図〔1/4〕・・・・・・・・・・・・・29

表目次

表1　原ノ前遺跡　出土遺物観察表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30
表2　松本遺跡　SB・SX・ピット出土土器観察表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・33
表3　松本遺跡　SB出土石製品観察表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・33

図版目次

図版1　原ノ前遺跡　全景・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・35
図版2　(1・2)原ノ前遺跡　調査前・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・36
(3)原ノ前遺跡　1・2・3号竪穴住居(南から)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・36
図版3　(1)4号竪穴住居(西から)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・37
(2)5・6・7号竪穴住居(南から)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・37
(3)5号竪穴住居遺物出土状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・37
図版4　(1)5号竪穴住居遺物出土状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・38
(2)5号竪穴住居(北から)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・38
(3)7号竪穴住居(南から)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・38

図版5　(1)8号竪穴住居(南から)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・39
(2)9号竪穴住居(南東から)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・39
(3)9号竪穴住居ベッド状遺構・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・39
図版6　(1)1号溝状遺構(西から)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・40
(2)1号不明遺構・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・40
(3)2号不明遺構(北から)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・40
図版7～10　遺物写真・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・41
図版11　(1)松本遺跡　全景・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・45
(2)松本遺跡　1,2号竪穴住居・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・45
(3)松本遺跡　3号竪穴住居,1号不明遺構・・・・・・・・・・・・・・・・・・45
(4)松本遺跡　4号竪穴住居・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・45
図版12　(1)松本遺跡　5号掘立柱建物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・46
(2)松本遺跡　6号掘立柱建物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・46
(3)松本遺跡　7号掘立柱建物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・46
(4)松本遺跡　8号(手前),16号掘立柱建物・・・・・・・・・・・・・・・・・・46
図版13　(1)松本遺跡　9,10号掘立柱建物・・・・・・・・・・・・・・・・・・47
(2)松本遺跡　10～12号掘立柱建物(南東より)・・・・・・・・・・・・・・・47
(3)松本遺跡　10,11号掘立柱建物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・47
(4)松本遺跡　15号掘立柱建物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・47
図版14　(1)松本遺跡　17号掘立柱建物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・48
(2)松本遺跡　1号溝状遺構(南西より)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・48
(3)松本遺跡　1号不明遺構・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・48
(4)松本遺跡　1号不明遺構　遺物出土状況・・・・・・・・・・・・・・・・・48
図版15　(1)松本遺跡　1号溝状遺構　土層・・・・・・・・・・・・・・・・・・49
(2)松本遺跡　1号不明遺構　土層A－A´・・・・・・・・・・・・・・・・・・49
(3)松本遺跡　1号不明遺構　土層B－B´・・・・・・・・・・・・・・・・・・49
(4)松本遺跡　1号不明遺構　土層C－C´・・・・・・・・・・・・・・・・・・49
図版16～19　遺物写真・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・50

1　調査の経過

（1）調査に至る経緯

平成57年度を初年度として行われた八女市南部地区県営圃場整備事業では、農地約209haを対象に、毎年20ha程度の圃場整備事業が実施された。平成元年度には国武、緒玉地区が事業地となり、事業地内の一部で埋蔵文化財の包蔵が推測され、これを受けて八女市教育委員会と八女市南部土地改良区で協議が行われ、八女市教育委員会による事前調査により、遺跡の範囲が広大に及ぶことが判明した。そこで、圃場整備により削平を免れる箇所については遺跡保護の観点から現状保存とし、削平される約20,000㎡を対象に遺跡の記録保存を目的に大坪・中里・篠原・松本遺跡（国武）、袴田（緒玉）の発掘調査が行われた。続けて平成3年度に実施された八女市南部第2地区県営圃場整備事業は矢部川によって形成された沖積平野の右岸地区が中心となる多くの地区が対象範囲となり、原ノ前遺跡（新庄）、京田・二反田・宮の前遺跡（酒井田）、宿町・野田・水洗遺跡（緒玉）などの調査が行われた。なお、発掘調査については国庫補助事業として実施されている。

（2）調査体制

【平成元年度】（松本遺跡発掘調査時）

〔調査主体〕　八女市教育委員会

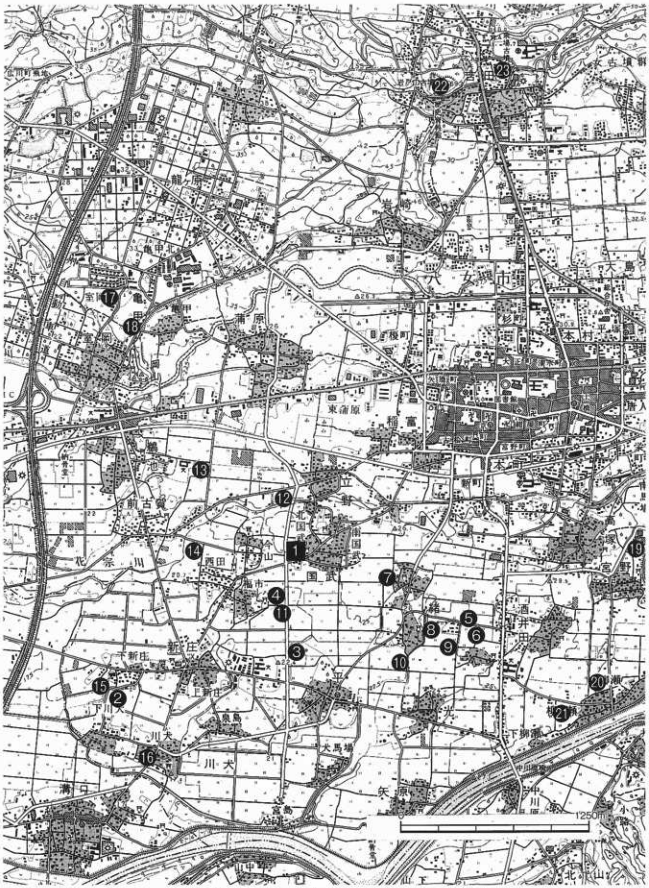
教育長　坂田　不二夫

社会教育課　課　　長　平島　敏章
課長補佐　山下　節夫
社会教育係　係長　大月　重信
係員　梅野　満　　平田　高義　　平島　芳子
赤崎　敏男（調査担当）

【平成2年度】（原ノ前遺跡発掘調査時）

〔調査主体〕　八女市教育委員会

教育長　坂田　不二夫



1．松本遺跡
2．原ノ前遺跡
3．上鳥町・日津町遺跡
4．大坪・前田遺跡
5．深田遺跡
6．京田遺跡
7．袴田遺跡
8．野田遺跡
9．二反田遺跡
10．宿町遺跡
11．中里遺跡
12．立野・大坪遺跡
13．樋の口遺跡
14．川原遺跡
15．新庄・六反田遺跡
16．川犬古墳群
17．西山ノ上遺跡
18．亀の甲遺跡
19．鍛冶屋遺跡
20．茶ノ木ノ本遺跡
21．アモメ遺跡
22．岩戸山古墳
23．乗場古墳

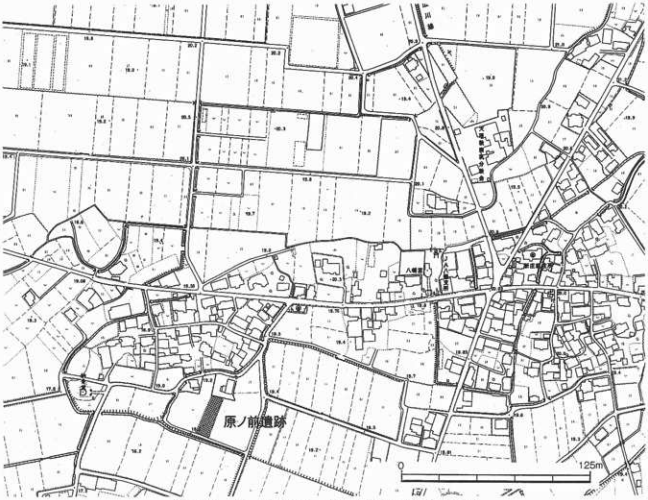
第１図　周辺遺跡分布図〔1/25,000〕

社会教育課　課　　長　小野　勝輝
課長補佐　大月　重信
社会教育係　係長　下川　文比古
係員　梅野　滴　　井手　勇一　　平島　芳子
赤崎　敏男（調査担当）

【平成２７年度】（報告書作成時）
八女市教育委員会
教育長　西島　民生
文化課　課　　長　井上　秀樹
課長補佐　月足　稔
文化財保護係　係長　中川　寿賀子
係員　永田　寧　　檀　佳克　　渡部　真弓

2　遺跡の立地と環境

八女市は平成１８年に八女郡に所在していた上陽町、平成２２年２月に立花町、黒木町、星野村、矢部村の２町２村と合併し、福岡県下で２番目の、東を大分県、南を熊本県と接する広



第２図　原ノ前遺跡　遺跡位置図〔1/2,500〕

大な自治体となった。多様な生産活動が見られ、東の山間部では杉や檜を中心とした林業が盛んであり、その地形を巧みに利用した文化的景観としての棚田も多数みられる。また、中山間部においては茶や、巨峰などの生産が行われている。平野部では苺や梨、電照菊などが生産されている。

これらの生産活動を可能にしている立地は、大分県との境にそびえる釈迦岳を源とし、有明海に向け西流する一級河川の矢部川が形成したものである。矢部川は以前、水上運搬に供され現市域で行われた産業すべての要であった。

現在の交通事情を概観すると、八女市内には大分県まで延びる国道４４２号線が東西に走り、交通量の増大に比例しバイパス道路の建設・開通も急ピッチで進んでいる。また、西部地区には九州の大動脈である国道３号線や九州縦貫自動車道が南北を貫いており、八女西部地区はまさに九州のクロスロード的な性格を持っている。

3　調査の内容

原ノ前遺跡

（1）発掘調査の概要

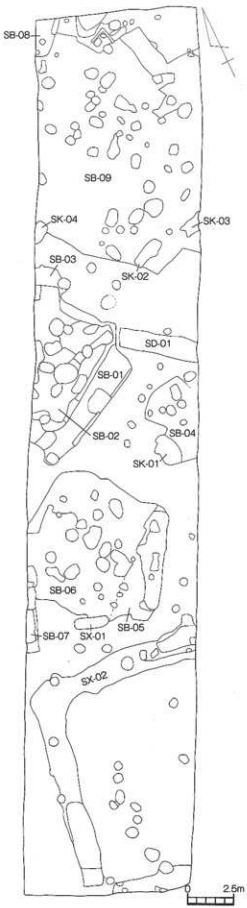
報告者が発掘調査者と異なるため、以下では、発掘調査者により作成された調査時の記録をもとに遺跡の概要を記す。なお、原ノ前遺跡については発掘調査概報についても掲載されていない。

原ノ前遺跡は、旧八女市西南部の八女市新庄にある下新庄集落のある微高地の南側、標高２０m程度の地点に所在している。原ノ前遺跡における発掘調査は、平成２年４月１１日から平成２年５月２９日にかけて実施された。調査対象となった面積は約５００㎡で、成果として弥生時代後期の集落跡が発見され、この時代における人々の生活を知る資料が見つかった。竪穴住居の他、南側において方形の溝状遺構に囲まれた空間を発見した。

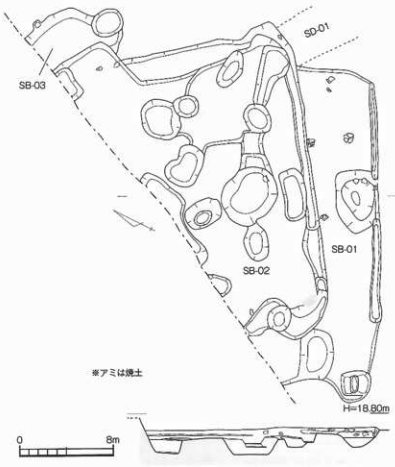
（2）遺構と遺物

１・２・３号竪穴住居（第４図　図版2-3）

西側の調査区境界中央南よりで検出された竪穴住居で、１号竪穴住居は２号竪穴住居に切られ、南東壁中央に屋内



第３図
原ノ前遺跡　遺構配置図〔1/200〕

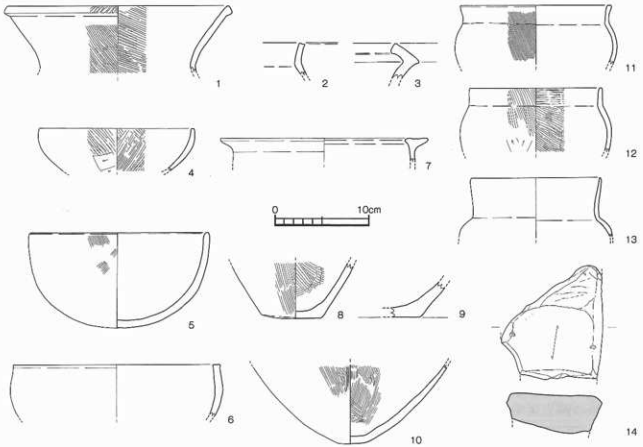


第４図　原ノ前遺跡　1,2,3号竪穴住居（SB-01,02,03）実測図〔1/80〕

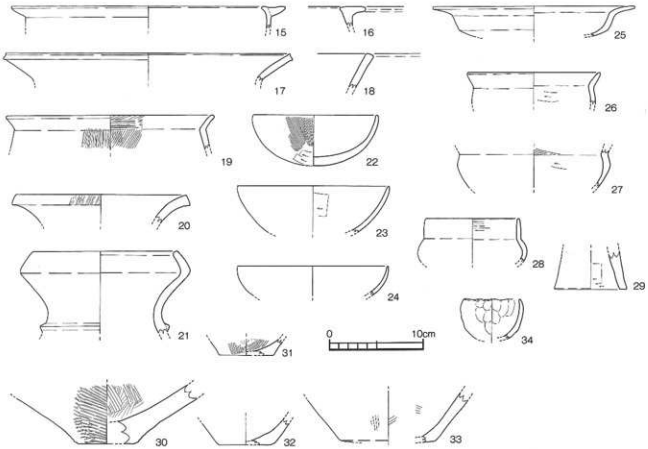
土坑を設ける。北東－南西幅で約６．４５ｍ。２号竪穴住居は、東側コーナーで１号溝状遺構を切っており、１号竪穴住居と同様南東壁中央に屋内土坑を設ける。長軸長６．２ｍ。調査時に３号竪穴住居として検出された遺構は、２号竪穴住居との切り合い関係は不明で、出土遺物は無い。

１号竪穴住居出土遺物（第５図）

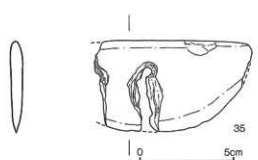
１～３は壺、４～６は素口縁の鉢。７～９は甕で８はレンズ状、９は平底の底部。１０は不安定なレンズ状の底部。１１～１３は口縁部が直線的に上方へ伸びる直口壺で、口縁部はほとんど開かない。１４は石英斑岩製の砥石。



第５図　原ノ前遺跡　１号竪穴住居（SB-01）出土遺物実測図〔1/4〕



第６図　原ノ前遺跡　２号竪穴住居（SB-02）出土遺物実測図〔1/4〕



第７図　原ノ前遺跡　２号竪穴住居
（SB-02）出土遺物実測図〔1/2〕

２号竪穴住居出土遺物（第６図）

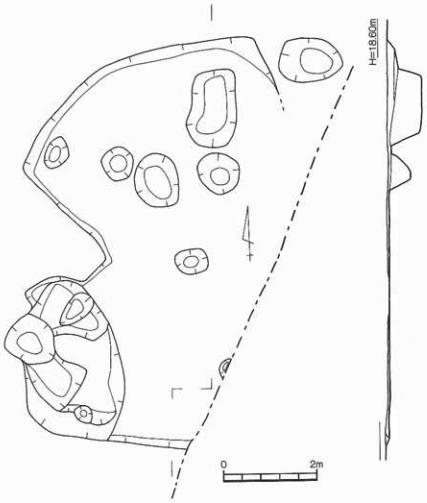
１５～１９は甕。２０・２１は壺で、２０は口唇部にキザミがつく。２１は複合口縁の壺。２２～２４は素口縁の鉢で２２は底部にケズリを施す。２５は高坏の坏部。２６，２７は口縁部が外反気味に開く鉢。２８は直口壺で口縁部が上方に直線的に延びる。２９は器台か。３０～３３は底部で３０～３２は平底、３３はレンズ状を呈する。３４は手づくねによるミニチュア土器。

２号竪穴住居出土石製品（第７図）

３５は２号竪穴住居から出土した石包丁片で、一方の穿孔箇所より外側を欠く。残存する穿孔は刃側に向かって穿孔部を拡張する２次加工がなされている。

４号竪穴住居（第８図　図版3-1）

１～３号竪穴住居の東側で検出された竪穴住居で、１号土坑に切られる。不定形で柱穴も確認できなかった。南北長４ｍ２５、東西長は東側が調査区外となっているため不明である。



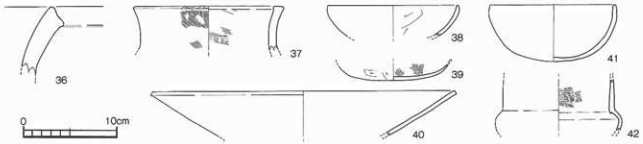
第８図　原ノ前遺跡　４号竪穴住居（SB-04）実測図〔1/40〕

４号竪穴住居出土遺物（第９図）

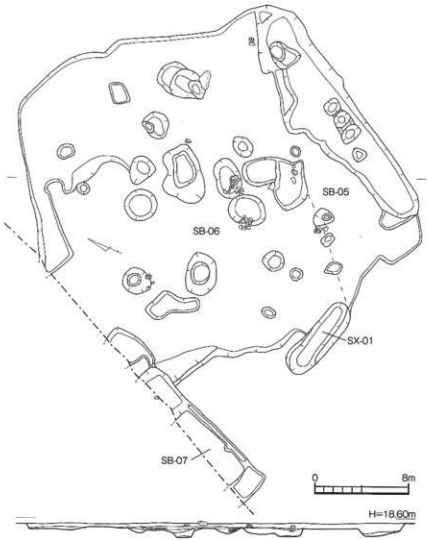
３６・３７は甕で、３７の甕は頸部の屈曲が緩く、口唇部にキザミが付く。３８・３９・４１は素口縁の鉢で、３９の下部外面にはケズリが施される。４０は高坏の坏部片で、直線的に開く。４２は直口壺で頸基部が太く、頸部は直線的に真上に延びる。

５・６・７号竪穴住居及び１号不明遺構（第１０図　図版3-2・3　図版4-1～3）

５号竪穴住居は南北方向をほぼ対角とする竪穴住居で、東側壁付近で南北方向の落ち込みがある。柱穴などは確認できていない。規模は確認できる東側壁の長さが約６．１ｍ。６号竪穴住居は、５号竪穴住居の南西側に重なるように検出されたが切り合い関係は図面から読み取れ



第９図　原ノ前遺跡　４号竪穴住居（SB-04）出土遺物実測図〔1/4〕



第１０図　原ノ前遺跡　5,6,7号竪穴住居（SB-05,06,07）及び
1号不明遺構（SX-01）実測図〔1/80〕

ない。規模は長軸幅６．８ｍ×短軸長５．９ｍの方形で、長軸方位はおよそＮ－５３°－Ｅ。７号竪穴住居は西側のほとんどが調査区外で不明なところが多い。北側で６号竪穴住居を切る。

５号竪穴住居出土遺物（第１１図）

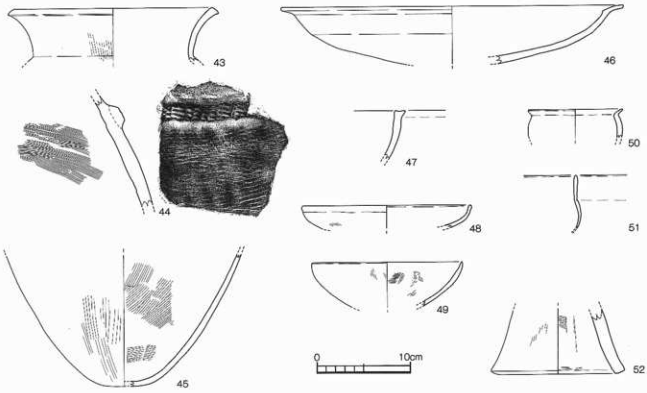
４３・４４は壷で、基頸部及び胴部上半に突帯を設ける。４５は底部、４６は高坏の坏部、４７～４９は鉢、４８の器形は浅く、５０は口縁部の短い小型の短頸壷。５１は直口壷で括れがわずかで頸部は上方に直線的に立ち上がる。５２は器台。

６号竪穴住居出土遺物（第１２図）

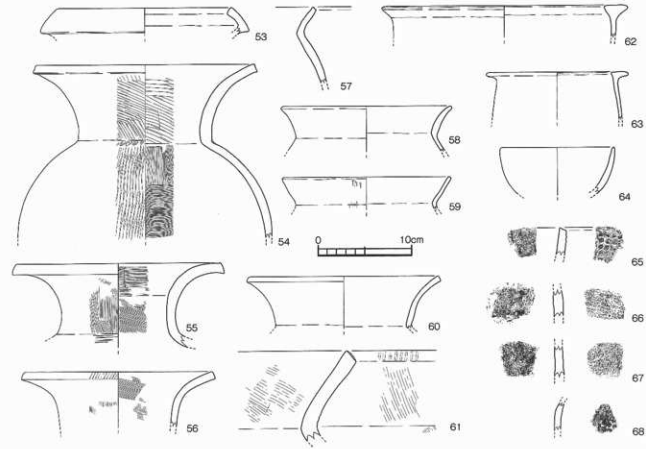
５３～５６・６０・６１は壷で５３は複合口縁、５６は口唇部にキザミが付く。５７～５９・６２・６３は甕、６４は素口縁の鉢。６５～６８は縄文土器片。

７号竪穴住居出土遺物（第１４図）

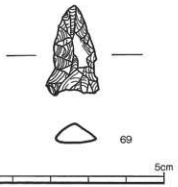
７０・７１は壷で、７０は口縁部が外反しながら開き、口縁端部が面をなす。７１は底部で



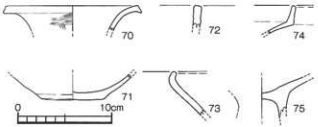
第１１図　原ノ前遺跡　5号竪穴住居（SB-05）出土遺物実測図〔1/4〕



第１２図　原ノ前遺跡　6号竪穴住居（SB-06）出土遺物実測図〔1/4〕



第１３図　原ノ前遺跡
6号竪穴住居（SB-06）
出土遺物実測図〔1/1〕



第１４図　原ノ前遺跡　７号竪穴住居（SB-07）
出土遺物実測図〔1/4〕

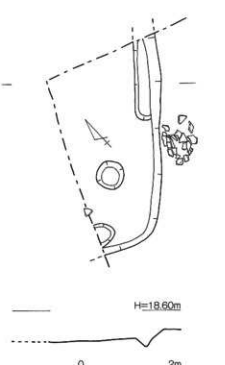
レンズ状を呈する。７３は短頸壺で非常に短くわずかに外反する口縁部をもつ。７４は二重口縁壺の口縁部片。７５は高坏で坏部と脚部下位を欠く。

８号竪穴住居（第１５図　図版5-1）

調査区の北西隅で検出された竪穴住居で、９号竪穴住居を切る。南東側のコーナーが調査区内で確認できた程度で詳細は不明。確認できる規模は東南東側の壁が２．４ｍ、南南西側の壁が０．６ｍである。

９号竪穴住居（第１６図　図版5-2・3）

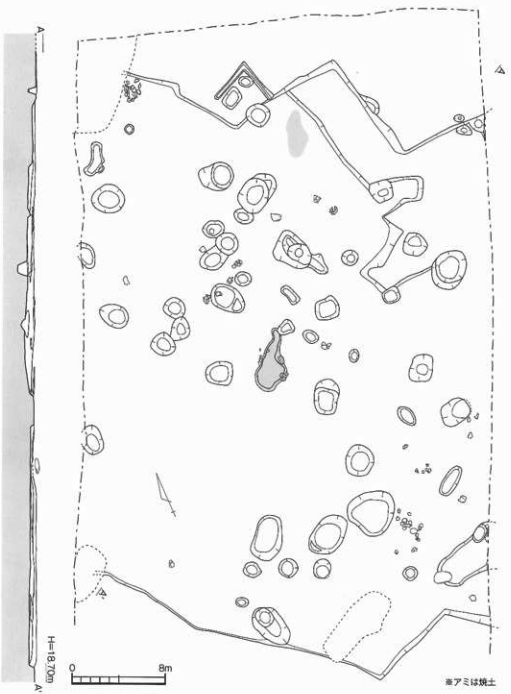
調査区の北側で検出され、２・４号土坑に切られる。調査時には「北ＳＢ」と「ＳＢ０９」の両方の表記があり、図面から複数の遺構が重複していることが推測できる。図面や調査時の写真（図版５の（３））から、北側中央においてベッド状遺構を設けた竪穴住居と考えられるものもみられるものの、切り合い関係もわからないので本報告では９号竪穴住居として一括して整理することとした。



第１５図　原ノ前遺跡　８号竪穴住居
（SB-08）実測図〔1/40〕

９号竪穴住居出土遺物（第１７図）

７６～８０・８３は甕で７６～７９の口縁端部は面をなし、７６の頸基部はゆるく屈曲してわずかに外反しながら立ち上がり、７７～７９の口縁部は直線的に開く。８０の口縁部は頸部で緩やかに立ち上がる。８１・８２は高坏で８１は頸部で屈曲し口縁部がわずかに外反しながら開く。８２は脚部。８４～８７は底

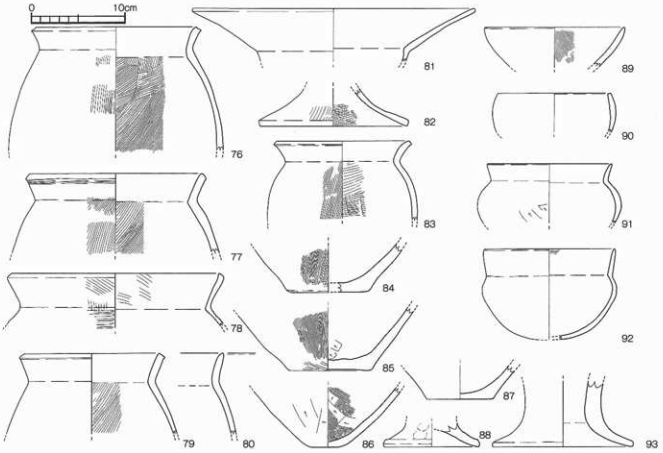


第１６図　原ノ前遺跡　９号竪穴住居（SB-09）実測図〔1/80〕

部で８４・８５・８７は平底、８６は底部径が小さく不安定なレンズ状、８８は脚部片。８９・９０は素口縁の鉢で８９は内湾しながら口縁部が直線的に広がる。９０の口縁部は内湾しながら上方に立ち上がる。９１・９２は短頸壺で９１は底部付近でケズリが施される。９２は括れが少なく口縁部が直線的に開く。

１号土坑実測図（第１８図）

４号竪穴住居を西側で切る楕円形の土坑。長軸１．７５m、短軸１．０５m。



第１７図　原ノ前遺跡　９号竪穴住居（SB-09）出土遺物実測図〔1/4〕

１号土坑出土遺物実測（第１９図）

９４は素口縁の鉢、９５は脚部片。

２号土坑（第２０図）

９号竪穴住居を切る東西に長い土坑で、長さ１．７５m、幅０．７５mを測る。出土遺物は無い。

３号土坑（第２１図）

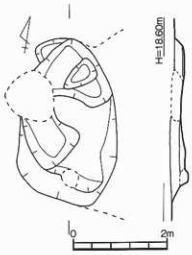
２号土坑の東側で検出された不定形の土坑で、東側が調査区外となっている。出土遺物は無い。

４号土坑（第２２図）

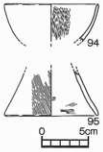
９号竪穴住居の南側壁が西側調査区境界と交わるあたりで９号竪穴住居を切るかたちで検出された土坑で東西方向に長い隅丸方形の土坑である。長軸は西側が調査区外となっているが約１．２m、幅は約０．８m、出土遺物は無い。

１号溝状遺構（第２３図　図版6-1）

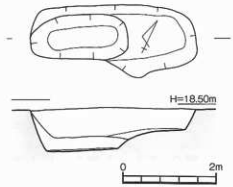
１・２号竪穴住居の東側、４号竪穴住居の北側で検出された北西－南東方向に走る溝状の遺構で、図面からは１・２号竪穴住居との切り合い関係はわからない。最大幅約１．２m。



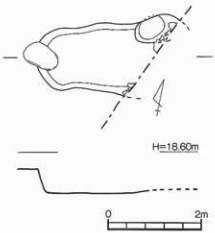
第１８図
原ノ前遺跡
１号土坑（SK-01）
実測図〔1/40〕



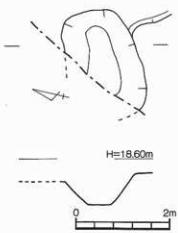
第１９図
原ノ前遺跡１号土坑（SK-01）
出土遺物実測図〔1/4〕



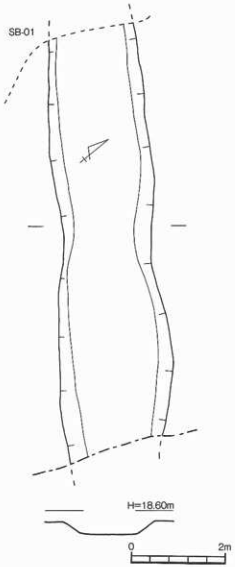
第２０図　原ノ前遺跡　２号土坑
（SK-02）実測図〔1/40〕



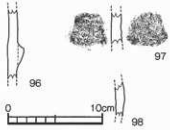
第２１図　原ノ前遺跡　３号土坑
（SK-03）実測図〔1/40〕



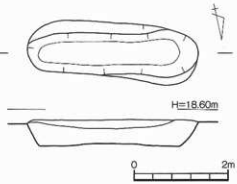
第２２図　原ノ前遺跡
４号土坑（SK-04）
実測図〔1/40〕



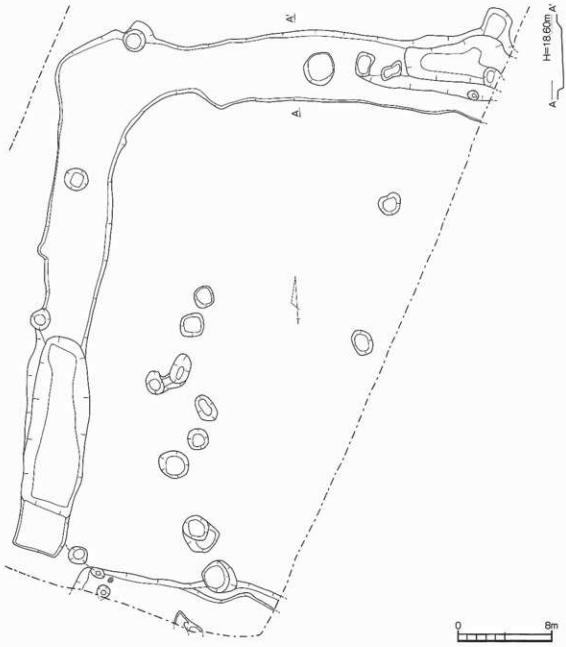
第２３図　原ノ前遺跡　１号溝状遺構
（SD-01）実測図〔1/40〕



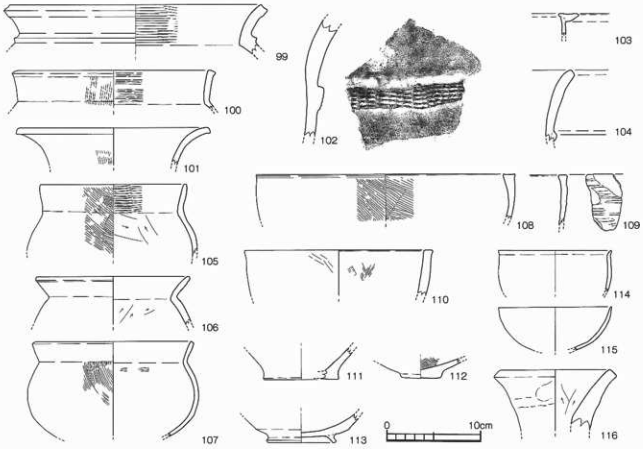
第２４図　原ノ前遺跡
1号溝状遺構（SD-01）
出土遺物実測図〔1/4〕



第２５図　原ノ前遺跡　1号不明遺構
（SX-01）実測図〔1/40〕



第２６図　原ノ前遺跡　2号不明遺構（SX-02）実測図〔1/80〕



第２７図　原ノ前遺跡　２号不明遺構（SX-02）出土遺物実測図〔1/4〕

１号溝状遺構出土遺物（第２４図）

９６は突帯の付く甕の胴部片か。９７・９８は縄文土器であるが表面が摩滅しており詳細は不明。

１号不明遺構（第２５図　図版6-2）

６号竪穴住居を南側で切るかたちで検出された、東西方向に細長い遺構で、長軸約１．８ｍ、幅約０．８ｍ、出土遺物は無い。

２号不明遺構（第２６図　図版6-3）

調査区南側で検出された幅１．４ｍの溝が方形に廻るプランを呈する遺構で、北西コーナーは方形に張り出しているようにも見えるが、南西側についてはコーナー部を検出しきれていない。溝状の遺構に囲まれた箇所については数基のピットが確認できたのみである。

２号不明遺構出土遺物（第２７図）

９９・１００は甕で、９９は厚みのある甕の口縁部で外反しながら開き、端部付近で段を有して厚みを増し、口唇部は面をなす。頸基部に突帯が廻る。１００は頸基部から口縁部が上方に向かって直線的にわずかに開く。１０１は外反しながら開く広口壺の口縁。１０２は突帯の付く壺、１０３・１０４は甕の口縁部で１０４は頸基部に突帯が廻る。１０５～１０７は短頸壺

で、１０５は口縁部がわずかに内湾しながら開く。１０８～１１０・１１４・１１５は鉢で１０８の口縁は内湾しながら端部付近で厚みを増し、口唇部は面をなす。１１４・１１５は小型で１１４はわずかに内湾しながら立ち上がり、口縁端部付近で短く外反する。１１１は平底の甕の底部か。１１２は不安定なレンズ状の壺の底部か。１１３は高台付きの椀で上半を欠く。１１６は器台。

（3）総括

今回報告する原ノ前遺跡では、弥生時代後期の集落跡が発見されている。竪穴住居は調査時の遺構番号では９棟発見されているが、切り合い関係が判らないものが多く、北側の９号竪穴住居では少なくとも３棟以上の竪穴住居が重複しているものと考えられ、全体では９棟以上の竪穴住居が存在している。調査区の南側の２号不明遺構（SX-02）は、調査時の図面では南西コーナーを欠くものの、写真などから方形に廻るプランを呈するものと思われる。溝は深さ約６０ｃｍと浅く、溝に囲まれた内部には数点のピットが検出されたのみで、どのような性格のものかは現時点では判らない。

この遺跡の西北西、約２００ｍに位置する新庄・六反田遺跡の調査では、１００棟を超える竪穴住居が発見され、その中でこの原ノ前遺跡の時期に当たる弥生時代後期に該当する竪穴住居は、原ノ前遺跡に近い東側に集中している。また現在の下新庄集落から見ると新庄・六反田遺跡は西側、この原ノ前遺跡は南側に位置しており、現在の下新庄集落のある微高地がこの時期の集落の中心と推測できる。

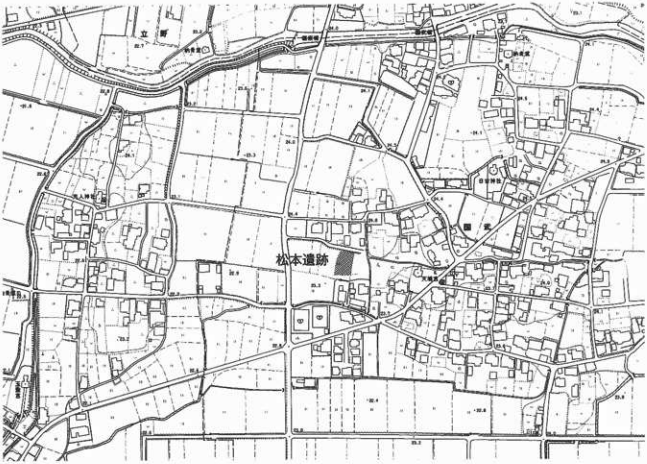
松本遺跡

（1）発掘調査の概要

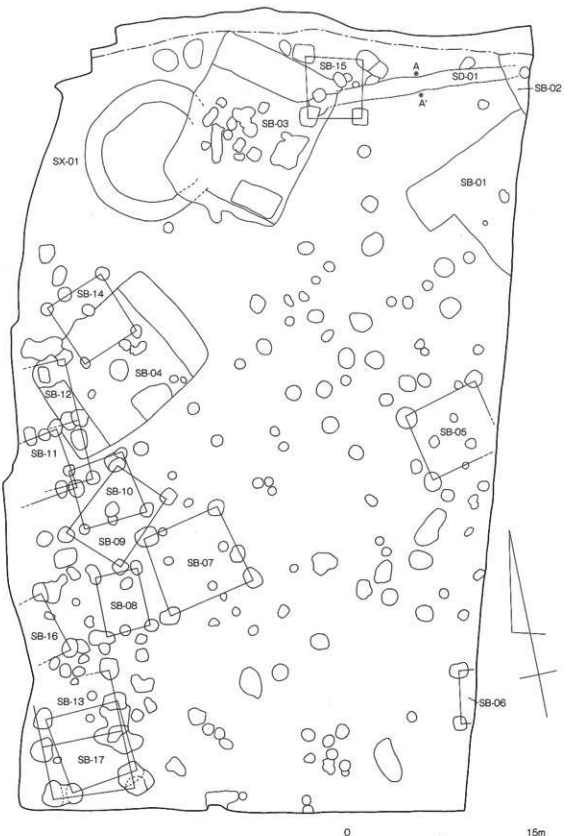
本遺跡は、八女市西部に位置する八女市国武字松本に所在しており、平成元年度調査として、平成元年１２月１日から翌２年１月１２日までの期間に発掘調査が実施された。調査面積は、約６４０㎡であった。

発掘調査区域は、国武天満宮の西側にあり、標高２３m前後で周辺よりやや小高い場所に立地していた。発掘調査以前は畑地であったが、今回の圃場整備事業で、水田として削平されることにより発掘調査が実施された。

発掘調査の結果、弥生時代から古墳時代の竪穴住居４軒、掘立柱建物１３棟、不明遺構１基、溝状遺構１条が検出された。出土遺物は、竪穴住居・掘立柱建物・不明遺構から弥生式土器・土師器・石器が出土している。



第２８図　松本遺跡位置図［1／5,000］



第２９図　松本遺跡遺構配置図［１／１５０］

（2）遺構と遺物

竪穴住居（ＳＢ）

竪穴住居は４棟検出され、調査区北側に集中して見つかった。時期は、弥生時代後期と思われる。

ＳＢ０１（第３０・４８図、図版１０・１６）

調査区北東隅から検出されており、ＳＢ０２に切られる。規模については遺構の東側半分以上が調査区域外になっているため不明である。検出の範囲で、南北長５．４ｍ＋α、東西長６．０～３．４ｍ＋αで、残存高は４５ｃｍである。西側の張出部と、柱穴１本が確認された。

遺物は、弥生式土器の甕・鉢が出土している。

ＳＢ０２（第３０・４８図、図版１０・１６）

調査区北東部で検出され、ＳＢ０１の北側に位置する。ＳＢ０１、ＳＤ０１に切られる。規模については、遺構の大半が調査区域外であるため不明である。残存高は３０ｃｍである。

遺物は、弥生式土器の鉢が出土している。

ＳＢ０３（第３１・４８図・５０図、図版１０・１６・１７）

調査区北側で検出された。長軸長６．９ｍ、短軸長５．３ｍの長方形プランである。中央に炉を持ち、短軸側にベッドを附設している。柱穴は１本だけ検出された。残存高は４０㎝で、長軸の方位は、Ｎ―４０°―Ｅである。ＳＤ０１に切られており、ＳＸ０１を切っている。

遺物は、土器は弥生式土器の壺・甕・高杯・鉢・器台が出土しており、石器は石包丁が出土している。

ＳＢ０４（第３２・４８・５０・５１図、図版１０・１７）

調査区西側中央で検出された。ＳＢ０３の南側に位置する。長軸長６．８ｍ、短軸長４．９ｍの長方形プランで、中央に炉を持ち、柱穴は２本である。短軸側にベッドを附設する。残存高は３０ｃｍで、長軸の方位は、Ｎ―５８°―Ｅである。

遺物は、土器は弥生式土器の甕・鉢が出土しており、石器は石包丁・すり石・砥石が出土している。

掘立柱建物（ＳＢ）

掘立柱建物は、竪穴住居を取り囲むように配置されており、規模が１間×１間のもの１１棟、２間×１間のもの２棟が検出され、大半は弥生時代後期のものと思われる。

ＳＢ０５（第３３図、図版１１）

調査区東側の中程で検出され、ＳＢ０１の南側に位置する。規模は１間×１間で、長軸長３．３ｍ、短軸長３．０ｍである。床面積は９．９㎡で、方位はＮ－７２°－Ｅである。

遺物は、出土していない。

ＳＢ０６（第３４図・図版１２）

調査区南東部に位置する。規模については、遺構東側が調査区域外で、柱穴２本のみの検出であるため不明である。南北長２．３ｍである。

遺物は、出土していない。

ＳＢ０７（第３５図、図版１２）

調査区西側で検出された。規模は１間×１間で、長軸長３．９ｍ、短軸長３．５ｍである。床面積は１３．６５㎡で、方位はＮ－７２°－Ｅである。

遺物は、出土していない。

ＳＢ０８（第３６図、図版１２）

調査区西側で検出され、ＳＢ０７の西側に位置する。規模は１間×１間で、長軸長２．４ｍ、短軸長１．８ｍである。床面積が４．４２㎡で、本遺跡の掘立柱建物中最小である。方位はＮ－０°である。

遺物は、出土していない。

ＳＢ０９（第３７図、図版１３）

調査区西側で検出され、ＳＢ１０と切り合っている。規模は１間×１間で、長軸長３．５ｍ、短軸長２．８ｍである。床面積９．８㎡で、方位はＮ－４５°－Ｅである。

遺物は出土していない。

ＳＢ１０（第３８図、図版１３）

調査区西側で検出され、ＳＢ０９・１１・１２と切り合う。規模は１間×１間で、長軸長２．７ｍ、短軸長２．５ｍである。床面積は６．７５㎡で、方位はＮ－８５°－Ｅである。

遺物は出土していない。

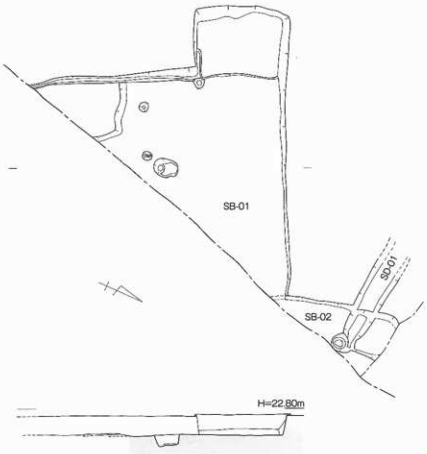
ＳＢ１１（第３９・４８図、図版１３・１８）

調査区西側で検出され、ＳＢ１０・ＳＢ１２と切り合っている。規模は、西側が調査区域外で、柱穴２本のみの検出であるため不明である。南北長２．４ｍである。

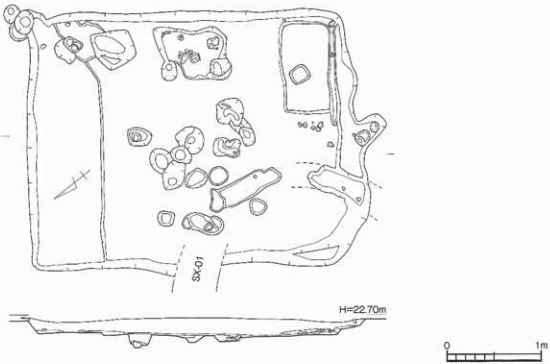
遺物は、土師器の壺・埦が出土している。

ＳＢ１２（第４０図、図版１３）

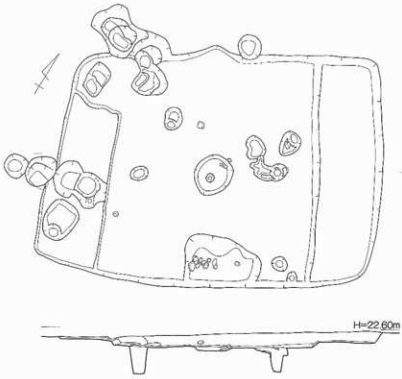
調査区西側で発見されており、ＳＢ０４竪穴住居を切り、ＳＢ１１掘立柱建物と切り合う。規模は、遺構西側が調査区域外で、柱穴３本のみの検出であるため不明である。南北長５．２ｍで、本遺跡の掘立柱建物のなかでは最大である。



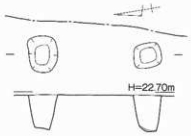
第３０図　松本遺跡　１，２号竪穴住居（ＳＢ０１，０２）実測図［１／８０］



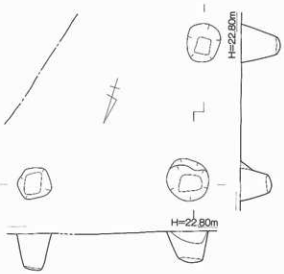
第３１図　松本遺跡　３号竪穴住居（ＳＢ０３）実測図［１／８０］



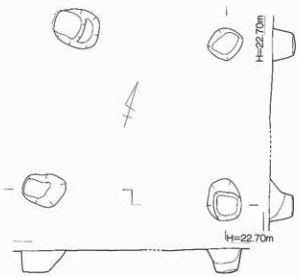
第３２図　松本遺跡　４号竪穴住居（ＳＢ０４）実測図［１／８０］



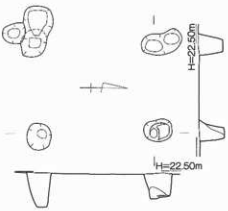
第３４図　松本遺跡　６号掘立柱建物（ＳＢ０６）実測図［１／８０］



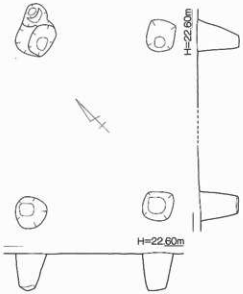
第３３図　松本遺跡　５号掘立柱建物（ＳＢ０５）実測図［１／８０］



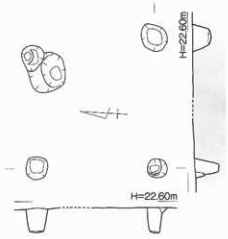
第３５図　松本遺跡　７号掘立柱建物（ＳＢ０７）実測図［１／８０］



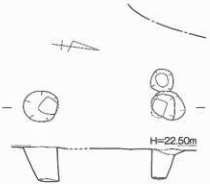
第３６図　松本遺跡　８号掘立柱建物（ＳＢ０８）実測図［１／８０］



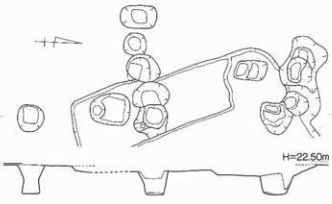
第３７図　松本遺跡　９号掘立柱建物（ＳＢ０９）実測図［１／８０］



第３８図　松本遺跡　１０号掘立柱建物（ＳＢ１０）実測図［１／８０］



第３９図　松本遺跡　１１号掘立柱建物（ＳＢ１１）実測図［１／８０］



第４０図　松本遺跡　１２号掘立柱建物（ＳＢ１２）実測図［１／８０］

遺物は出土していない。

ＳＢ１３（第４１・４９図、図版１８）

調査区の南西隅に位置し、ＳＢ１７と切り合う。規模は２間×１間で、南北長５．０ｍ、東西長３．３ｍである。床面積は約１６．５㎡で、方位はＮ－５°－Ｗである。

遺物は、土師器の壺が出土している。

ＳＢ１４（第４２・４９図、図版１８）

調査区北西に位置し、ＳＢ０４竪穴住居を切っている。規模は、１間×１間で長軸長２．８ｍ、短軸長は約２．６ｍである。床面積は約７．２８㎡で、方位はＮ－２５°－Ｗである。

遺物は、土師器の甕が出土している。

ＳＢ１５（第４３図、図版１２）

本遺跡の掘立柱建物としては、唯一調査区北側で検出されており、ＳＢ０３竪穴住居を切っている。規模は１間×１間で、南北長２．４ｍ、東西長約２．４ｍである。床面積は５．７６㎡で、方位はＮ－１５°－Ｅである。

遺物は出土していない。

ＳＢ１６（第４４図）

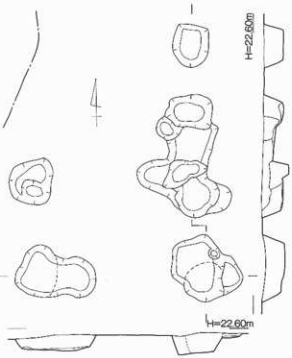
調査区南西部で見つかっており、規模は西側が調査区域外であり、柱穴２本のみの検出であるため不明である。南北長２．６ｍである。

遺物は出土していない。

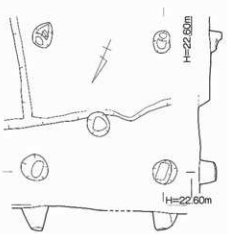
ＳＢ１７（第４５図、図版１３）

調査区南西隅で検出されており、ＳＢ１３と切り合う。規模は１間×１間で、長軸長３．１ｍ、短軸長２．８ｍである。床面積は約８．６８㎡で、方位はＮ－６５°－Ｅである。

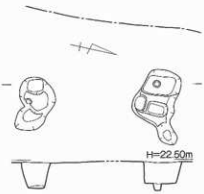
遺物は出土していない。



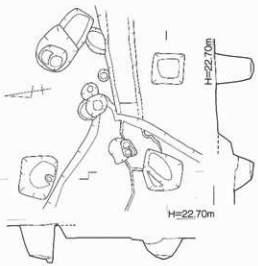
第４１図　松本遺跡　１３号掘立柱建物（ＳＢ１３）実測図［１／８０］



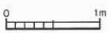
第４２図　松本遺跡　１４号掘立柱建物（ＳＢ１４）実測図［１／８０］

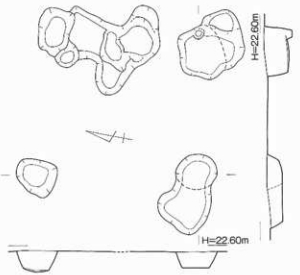


第４４図　松本遺跡　１６号掘立柱建物（ＳＢ１６）実測図［１／８０］



第４３図　松本遺跡　１５号掘立柱建物（ＳＢ１５）実測図［１／８０］





第４５図　松本遺跡　１７号掘立柱建物（ＳＢ１７）実測図［１／８０］

不明遺構（ＳＸ）

不明遺構（円形周溝状遺構）は、１基のみが検出された。

ＳＸ０１（第４６・４９図、図版１３・１４・１８）

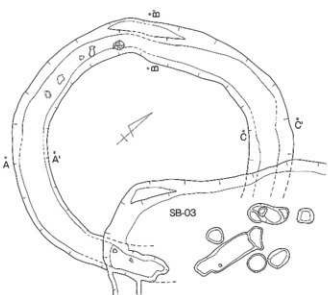
調査区北側で検出されており、ＳＢ０３竪穴住居に切られる。長軸長６ｍ、短軸長５．４ｍで楕円形に近い。周溝断面はＵ字形を呈し、床面幅は約５５㎝で、内側傾斜がやや緩やかである。埋土は、４層～７層見られた。

遺物は、弥生式土器の壺・器台が出土している。

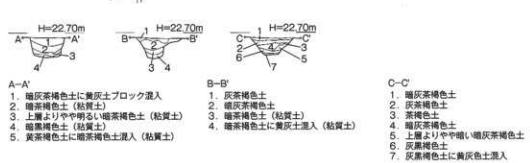
ＳＤ０１（第４７図、図版１３・１４）

調査区北側で検出されており、ＳＢ０２・０３竪穴住居を切り、ＳＢ１５掘立柱建物に切られる。東西方向であるが、東側は調査区域外で西側は検出できていない。検出長９ｍで、残存幅は６０㎝、残存高は２０ｃｍ～３０ｃｍである。断面は逆台形で、南側が緩やかに立ち上がる。

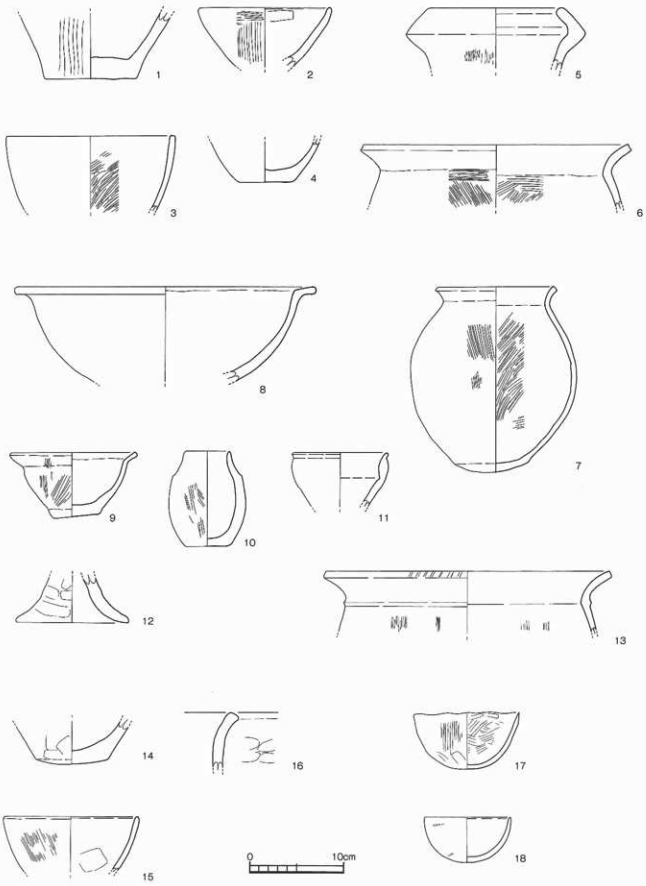
遺物は、弥生式土器が出土しているが、細片であるため図示できない。



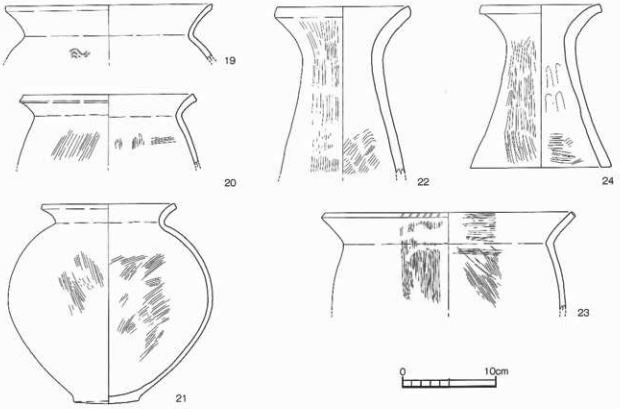
第４７図　松本遺跡　１号溝状遺構（ＳＤ０１）土層断面図［１／８０］



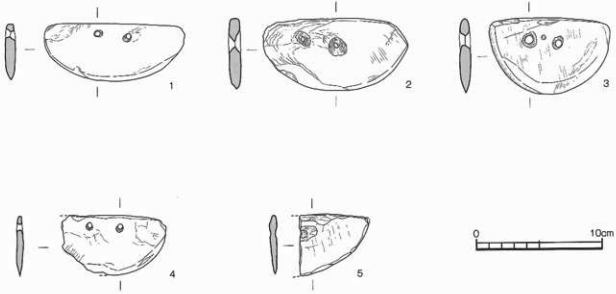
第４６図　松本遺跡　１号不明遺構（ＳＸ０１）実測図・土層断面図［１／８０］



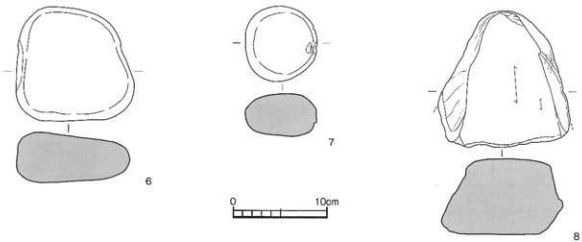
第４８図　松本遺跡　１～４号竪穴住居（ＳＢ０１～０４）・１１号掘立柱建物（ＳＢ１１）出土土器実測図［１／４］



第４９図　松本遺跡　１３，１４号掘立柱建物（ＳＢ１３，１４）・１号不明遺構（ＳＸ０１）・ピット出土土器実測図［１／４］



第５０図　松本遺跡　３，４号竪穴住居（ＳＢ０３，０４）出土石製品実測図［１／３］



第５１図　松本遺跡　４号竪穴住居（ＳＢ０４）出土石製品実測図［１／４］

（３）総括

今回の発掘調査により、弥生時代後期を中心とした集落が発見され、遺構については、前述のとおりである。竪穴住居は北側に集中しており、規模が確認できたものは２軒のみであった。平面プランは、いずれも長方形で、柱穴は長軸方向に２本あり、中央に炉を持っている。（ＳＢ０３・ＳＢ０４）また、両端にベッド状遺構が設置されており、長軸片側に土壙が設けられていた。規模についてもほぼ同じである。出土遺物はＳＢ０３が最も多く、複合口縁の壺などが出土している。また、ＳＢ０４からは４点の片岩製の石包丁が出土しており、うち１点は穿穴途中のものであった。同遺構からは砥石なども見つかっており、ここで製造されたと思われる。

また、掘立柱建物は調査区域の西側に多く分布しており、切り合いから３期が確認された。規模は、１間×１間、２間×１間のものが見つかっており、前者は小型のもの（ＳＢ０８・１０・１１・１４・１５）、中型のもの（ＳＢ０５・０７・０９）の２種類が見られた。後者（ＳＢ１２・１３）については同じ規模と思われる。大半は弥生時代後期のものと思われるが、ＳＢ１２・１４・１５は、竪穴住居を切っており、ＳＢ１４の柱穴から土師器が出土しており、古墳時代のものと思われる。

不明遺構（円形周溝状遺構）は祭祀関係のものと思われ、ＳＢ０３に切られていることから、竪穴住居よりやや古い時期に存在したと思われる。

本調査によって、平成元年度発掘調査が実施された「篠原遺跡１～４地点」の弥生後期の集落がさらに南側まで広がっていたことが確認された。

（単位：cm）

遺跡名	挿図番号	遺物番号	整理番号	遺構番号	種類	器種	残存	胎土・焼地	寸法 口径（底元径）	寸法 底径（頂元径）	寸法 器高（頂元径）	色調	調整
原ノ前遺跡	5	1	R-004	SB-01	弥生土器	鉢	頸部片	片岩、石英を含む	(23.5)				内：ハケ目／外：口縁部にキザミ
原ノ前遺跡	5	2	R-008	SB-01	弥生土器	壺	口縁部～頸部片					淡黄灰褐色	内：ハケ目／外：ハケ目後ナデ
原ノ前遺跡	5	3	R-006	SB-01	弥生土器	甕	複合口縁					淡黄灰色	ナデ
原ノ前遺跡	5	4	R-001	SB-01	弥生土器	鉢	口縁部片		(16.4)			内：暗黄灰褐色 外：淡黄灰褐色	内：ハケ目／外：ハケ目、ヘラ状器具痕
原ノ前遺跡	5	5	R-012	SB-01 No. 05	弥生土器	鉢	4/5片		(19.4)		10.0	内：淡黄色 外：淡黄褐色	内：ナデ／外：ハケ目後ナデ
原ノ前遺跡	5	6	R-029	SB-01 No. 02	弥生土器	鉢	口縁部片		(22.2)			淡黄灰褐色	ナデ
原ノ前遺跡	5	7	R-005	SB-01	弥生土器	甕	口縁部片		(22.0)			黄茶褐色	ナデ
原ノ前遺跡	5	8	R-010	SB-01 No. 03	弥生土器	甕	底部片			6.4		内：暗茶褐色 外：黄灰褐色	内：ハケ目後ナデ／外：ハケ目
原ノ前遺跡	5	9	R-007	SB-01	弥生土器	甕	底部縁片					内：淡黄灰褐色 外：灰淡黄褐色	ナデ
原ノ前遺跡	5	10	R-003	SB-01	弥生土器	甕か	底部片			(2.4)		淡黄灰褐色	ハケ目のちナデ
原ノ前遺跡	5	11	R-011	SB-01 No. 04	弥生土器	壺	口縁部～胴部片		(16.0)			内：淡黄褐色 外：暗黄褐色	内：ナデ／外：ハケ目
原ノ前遺跡	5	12	R-009	SB-01	弥生土器	壺	口縁部～胴部片		(14.0)			淡黄褐色	内：ハケ目（頸部横方向）／外：ハケ目、下半ヘラ状器具痕
原ノ前遺跡	5	13	R-002	SB-01	弥生土器	壺	口縁部～肩部片		(13.6)			内：明茶褐色 外：暗黄茶褐色	不明
原ノ前遺跡	5	14	R-075	SB-01 No. 01	石製品	紡石		石英斑岩	幅10.6、長さ12、厚さ4				
原ノ前遺跡	6	15	R-024	SB-02	弥生土器	甕	口縁部片		(29.0)			淡黄褐色	内：ナデ／外：ヨコナデ
原ノ前遺跡	6	16	R-028	SB-02	弥生土器	甕	口縁部胴片					内：黄褐色 外：茶褐色	ヨコナデ
原ノ前遺跡	6	17	R-031	SB-02	弥生土器	甕	口縁部片		(30.0)			黄灰褐色	
原ノ前遺跡	6	18	R-022	SB-02	弥生土器	甕か	口縁部片					黄褐色	横方向のハケ目
原ノ前遺跡	6	19	R-019	SB-02	弥生土器	甕	口縁部片		(22.0)			内：黄茶褐色 外：黄灰褐色	内：ハケ目／外：ハケ目後ナデ
原ノ前遺跡	6	20	R-016	SB-02	弥生土器	壺	口縁部片		(18.0)			内：黄褐色 外：明黄褐色	キザミ
原ノ前遺跡	6	21	R-014	SB-02	弥生土器	壺	口縁部～頸部片		(16.2)			黄灰褐色	
原ノ前遺跡	6	22	R-033	SB-02 No. 2	弥生土器	鉢			(13.3)		5.4	淡黄灰褐色	内：ナデ／外：ハケ目、下部にケズリ
原ノ前遺跡	6	23	R-023	SB-02	弥生土器	鉢	口縁部片		(16.0)			暗黄灰褐色	内：ヘラ状器具による調整／外：ナデ
原ノ前遺跡	6	24	R-015	SB-02	弥生土器	鉢	口縁部片	片岩を含む	(16.0)				
原ノ前遺跡	6	25	R-017	SB-02	弥生土器	高坏	坏部口縁部片		(21.4)			暗黄褐色	ヨコナデ
原ノ前遺跡	6	26	R-032	SB-02	弥生土器	鉢			(14.0)			淡茶灰褐色	ヘラ状器具による調整
原ノ前遺跡	6	27	R-030	SB-02	弥生土器	鉢	胴部片					内：黒褐色 外：淡黄灰褐色	内：ハケ目、ヘラ状器具による調整／外：ナデ
原ノ前遺跡	6	28	R-018	SB-02	弥生土器	壺	口縁部～胴部片		(10.0)			淡黄灰褐色	横方向ヘラ目後ナデ
原ノ前遺跡	6	29	R-021	SB-02	弥生土器	器台	下部片			(9.6)		暗黄灰褐色	内：ヘラ状器具による調整／外：ナデ
原ノ前遺跡	6	30	R-013	SB-02	弥生土器	甕か	底部片			(6.0)		淡黄褐色	ハケ目
原ノ前遺跡	6	31	R-026	SB-02	弥生土器	甕か	底部片			(5.8)		暗黄茶褐色	ハケ目
原ノ前遺跡	6	32	R-025	SB-02	弥生土器	甕か	底部片			(5.6)		内：暗黄褐色 外：淡褐色	ナデ
原ノ前遺跡	6	33	R-027	SB-02	弥生土器	甕か	底部片			(10.0)		内：淡黄灰褐色 外：淡茶灰褐色	ハケ目
原ノ前遺跡	6	34	R-020	SB-02	弥生土器	ミニチュア土器	1/3片		(6.0)			内：淡褐色 外：淡黄褐色	ナデ
原ノ前遺跡	7	35	R-074	SB-02	石製品	石錘T	3/5片	片岩	幅4.7、厚さ0.7				
原ノ前遺跡	9	36	R-034	SB-04	弥生土器	甕	口縁部細片					淡黄茶灰褐色	ハケ目
原ノ前遺跡	9	37	R-036	SB-04 P-1	弥生土器	甕	口縁部片		(16.0)				口縁部にキザミ目
原ノ前遺跡	9	38	R-035	SB-04 P-1	弥生土器	鉢	口縁部片		(14.0)			黄茶褐色	
原ノ前遺跡	9	39	R-039	SB-04 P-1	弥生土器	鉢	底部片					淡黄灰褐色	内：ハケ目／外：底部ケズリ
原ノ前遺跡	9	40	R-038	SB-04 P-1	弥生土器	高坏	坏部上部片		(32.0)				

第1表　原ノ前遺跡　出土遺物観察表（1/3）

（単位：cm）

遺跡名	挿図番号	遺物番号	整理番号	遺構番号	層位	器種	残存	胎土・混和	寸法 口径（底径・口部）	寸法 器高（現存高）	寸法 最大径（現存高）	色調	調整
原ノ前遺跡	9	41	R-07	SB-04 P-3	弥生土器	鉢	2/3片		(13.3)	(6.0)		淡黄褐色	
原ノ前遺跡	9	42	R-037	SB-04 P-1	弥生土器	壺			(11.6)			暗茶褐色	内：横方向のハケ目/外：ナデ
原ノ前遺跡	11	43	R-057	SB-05 東側り込み	弥生土器	鉢	口縁部片	砂粒を含む	(21.0)			淡黄灰褐色	ヨコナデ，ハケ目
原ノ前遺跡	11	44	R-209	SB-05 東側り込み	弥生土器	甕か	胴部上半片					内：黄褐色 外：黒色	内：ハケ目/外：タタキのちハケ目
原ノ前遺跡	11	45	R-206	SB-05 東側り込み	弥生土器	甕か	底部片	片岩・石英を含む				内：黒灰褐色 外：暗黄灰褐色	内：ハケ目/外：ハケ目
原ノ前遺跡	11	46	R-291	SB-07	弥生土器	高杯	坪部片	片岩を含む	(36.0)			黄灰褐色	
原ノ前遺跡	11	47	R-035	SB-05 東側り込み	弥生土器	鉢	口縁部細片					内：淡黄褐色 外：黄茶褐色	内：ナデ/外：ハケ目
原ノ前遺跡	11	48	R-204	SB-05 東側り込み	弥生土器	鉢	坪部片		(17.0)			内：淡茶褐色 外：明茶褐色	ハケ目
原ノ前遺跡	11	49	R-203	SB-05 東側り込み	弥生土器	鉢	1/8片		(16.0)			内：淡黄褐色 外：黄灰褐色	内：ハケ目/外：ハケ目
原ノ前遺跡	11	50	R-202	SB-05	弥生土器	壺	口縁部片		(10.0)			内：黄灰褐色 外：茶褐色	ナデ
原ノ前遺跡	11	51	R-052	SB-03 東側り込み	弥生土器	底	胴片					淡黄褐色	ナデ，ヨコナデ，箆状工具による調整
原ノ前遺跡	11	52	R-218	SB-03 東側り込み	弥生土器	器台	底部片			(14.2)		内：黄灰茶褐色 外：黄茶褐色	内：ハケ目/外：ハケ目
原ノ前遺跡	12	53	R-211	SB-06	弥生土器	甕	口縁部片		(18.4)			内：暗茶褐色 外：茶褐色	
原ノ前遺跡	12	54	R-040	SB-06	弥生土器	甕	胴最上半～頸部		(23.2)			内：淡褐色 外：暗黄灰褐色	内：ハケ目/外：頸部にキザミ
原ノ前遺跡	12	55	R-213	SB-06 No. 8	弥生土器	鉢	底部片		(21.6)			黒灰褐色	ハケ目のちナデ
原ノ前遺跡	12	56	R-216	SB-06	弥生土器	壺	頸部片		(20.0)			内：黄灰褐色 外：淡黄褐色	内：ハケ目/外：端部にキザミ
原ノ前遺跡	12	57	R-215	SB-06	弥生土器	壺	最底～口縁部片					茶灰褐色	ハケ目
原ノ前遺跡	12	58	R-214	SB-06	弥生土器	甕	口縁部片		(18.2)			黄褐色	
原ノ前遺跡	12	59	R-212	SB-06	弥生土器	甕	口縁部片		(18.0)			明茶褐色	ハケ目
原ノ前遺跡	12	60	R-217	SB-06 No. 7	弥生土器	壺	口縁部片		(20.6)			淡黄褐色	不明
原ノ前遺跡	12	61	R-210	SB-06	弥生土器	壺	口縁部片					暗黄灰褐色	内：ハケ目/外：端部にキザミ
原ノ前遺跡	12	62	R-209	SB-06	弥生土器	甕	口縁部片		(26.0)			内：黄茶褐色 外：淡黄灰褐色	内：ナデ/外：横方向のハケ目
原ノ前遺跡	12	63	R-208	SB-06	弥生土器	甕	口縁部片		(15.0)			内：明茶色 外：黄茶褐色	ナデ
原ノ前遺跡	12	64	R-207	SB-06	弥生土器	鉢	1/8片		(12.0)			内：黒黄褐色 外：黄茶褐色	ハケ目
原ノ前遺跡	12	65	R-062	SB-06 P-1	縄文土器	不明	口縁部細片					暗褐色	
原ノ前遺跡	12	66	R-065	SB-06	縄文土器	不明	胴片					暗黄褐色	
原ノ前遺跡	12	67	R-064	SB-06	縄文土器	不明	胴片					内：暗黄褐色 外：暗茶褐色	
原ノ前遺跡	12	68	R-063	SB-06 P-1	縄文土器	不明	細片					茶褐色	
原ノ前遺跡	13	69	R-076	SB-06	石製品	石鏃	完形	黒曜石	幅1.4，長さ2.4，厚さ0.5				
原ノ前遺跡	14	70	R-221	SB-07 No. 1	弥生土器	壺	口縁部片						
原ノ前遺跡	14	71	R-219	SB-07	弥生土器	壺か	底部片			(6.6)		内：黒灰褐色 外：黄茶褐色	
原ノ前遺跡	14	72	R-068	SB-07	縄文土器	不明	口縁部細片					暗茶褐色	
原ノ前遺跡	14	73	R-224	SB-07 中央張り込み	弥生土器	壺	口縁部片					黄茶褐色	
原ノ前遺跡	14	74	R-223	SB-07 中央張り込み	弥生土器	壺	口縁部小片	片岩・石英を含む				内：黄褐色 外：黄茶褐色	
原ノ前遺跡	14	75	R-220	SB-07 No. 1	弥生土器	高杯	坪部下部～脚部片					内：黄褐色 外：黄茶褐色	
原ノ前遺跡	17	76	R-049	SB-09 No. 06	弥生土器	甕	口縁部～胴部片		(17.0)			内：暗黄灰褐色 外：淡黄灰褐色	
原ノ前遺跡	17	77	R-050	SB-09 No. 04	弥生土器	壺	口縁部～胴部片		(18.2)			内：暗茶灰褐色 外：茶褐色	ハケ目後ナデ
原ノ前遺跡	17	78	R-059	SB-09 No. 12	弥生土器	甕	口縁部片		(22.0)			淡黄灰褐色	ハケ目
原ノ前遺跡	17	79	R-055	SB-09 P-6	弥生土器	甕				(12.0)		黄茶褐色	ナデ
原ノ前遺跡	17	80	R-044	SB-09 P-11	弥生土器	甕	口縁部片					内：暗黄褐色 外：淡褐色	内：ハケ目/外：ナデ

第1表　原ノ前遺跡　出土遺物観察表（2/3）

（単位：cm）

遺跡名	挿図番号	遺物番号	整理番号	遺構番号	種類	器種	残存	胎土_素地	寸法 口径（現在口径）	寸法 底径（現在底径）	寸法 器高（残存器高）	色調	調整
原ノ前遺跡	17	81	R-043	SB-09 P-11	弥生土器	高坏	底部片					内:暗黄灰褐色 外:淡黄褐色	ハケ目
原ノ前遺跡	17	82	R-048	SB-09 No. 09	弥生土器	高坏	脚部下部片			(15.6)		内:黄茶褐色 外:淡黄褐色	ハケ目
原ノ前遺跡	17	83	R-047	SB-09 P-8	弥生土器	壺	胴部上半		(16.0)				
原ノ前遺跡	17	84	R-043	SB-09 No. 01	弥生土器	甕	底部片			(15.8)		淡黄褐色	ハケ目
原ノ前遺跡	17	85	R-041	SB-09 No. 07	弥生土器	甕	底部片			(8.8)		内:黄茶褐色 外:淡黄灰褐色	内:底部ヘラ状器具による調整/外:底部付近ミガキ
原ノ前遺跡	17	86	R-054	SB-09 P-6	弥生土器	甕	底部片			(3.8)		内:淡黄褐色 外:暗黄灰褐色	内:ハケ目/外:底部付近ケズリ
原ノ前遺跡	17	87	R-042	SB-09 No. 01	弥生土器	甕	底部片			(7.0)		淡黄灰色	
原ノ前遺跡	17	88	R-057	SB-09 P-18	弥生土器	鉢	脚部端			(10.0)		淡黄褐色	
原ノ前遺跡	17	89	R-058	SB-09 SK-2	弥生土器	鉢	口縁部片		(14.9)			淡黄褐色	内:ハケ目/外:ナデ
原ノ前遺跡	17	90	R-056	SB-09 P-20	弥生土器	鉢	口縁部片		(12.0)			内:茶褐色 外:黄茶褐色	ナデ
原ノ前遺跡	17	91	R-060	SB-09 No. 12	弥生土器	壺	口縁部～胴部片		(13.2)			赤褐色	ナデ、底部ケズリ
原ノ前遺跡	17	92	R-046	SB-09 No. 11	弥生土器	壺	口縁部～胴部片			(14.7)	(9.6)	内:暗黄灰褐色 外:黄茶褐色	ナデ
原ノ前遺跡	17	93	R-225	SB-09 (堀内上坑)	弥生土器	不明	脚部片			(14.8)		黄褐色	
原ノ前遺跡	19	94	R-226	SB-09 (堀内上坑)	弥生土器	鉢	口縁部片		(10.0)			内:黄茶褐色 外:黄灰褐色	内:ハケ目/外:不明
原ノ前遺跡	19	95	R-227	SB-09 (堀内上坑)	弥生土器	脚部	脚部片			(10.0)		暗黄灰褐色	ハケ目
原ノ前遺跡	24	96	R-063	SD-01	弥生土器	甕か	胴部片					内:黄黒灰褐色 外:淡黄灰褐色	内:ハケ目/外:突帯ヨコナデ
原ノ前遺跡	24	97	R-066	P-07	縄文土器	不明	鉢片					暗黄黒褐色	不明
原ノ前遺跡	24	98	R-069	P-08	縄文土器	不明	鉢片					黒褐色	不明
原ノ前遺跡	27	99	R-122	SX-01	弥生土器	甕	口縁部片		(26.8)			淡黄灰褐色	内:ハケ目のちナデ/外:ヨコナデ、ハケ目
原ノ前遺跡	27	100	R-238	SX-02 北西	弥生土器	甕	口縁部片		(21.6)			内:暗黄灰褐色 外:黒灰色	内:ハケ目後ナデ/外:ハケ目
原ノ前遺跡	27	101	R-128	SX-02	弥生土器	甕	口縁部片		(20.0)			黄茶褐色	ハケ目
原ノ前遺跡	27	102	R-133	SX-02 北西	弥生土器	甕	胴片					淡黄褐色土	内:ハケ目/外:タタキ後ハケ目
原ノ前遺跡	27	103	R-234	SX-02 南東	弥生土器	甕	口縁部片					黄灰褐色	ナデ
原ノ前遺跡	27	104	R-134	SX-02 南西	弥生土器	甕	口縁部片					暗黄褐色	不明
原ノ前遺跡	27	105	R-129	SX-02 南東	弥生土器	壺	口縁部片		(15.6)			内:淡黄褐色 外:淡灰色	内:ハケ目後ナデ/外:ハケ目
原ノ前遺跡	27	106	R-131	SX-02 北西	弥生土器	壺	口縁部片		(16.0)			淡黄褐色	ナデ
原ノ前遺跡	27	107	R-127	SX-02 北西	弥生土器	壺	口縁部～胴部片	片岩、石英を含む	(17.6)			淡黄褐色	内:ハケ目/外:ハケのちナデ
原ノ前遺跡	27	108	R-124	SX-02 北西	弥生土器	鉢	口縁部～胴部片		(24.8)			内:黒灰色 外:淡黄灰褐色	ハケ目
原ノ前遺跡	27	109	R-239	SX-02 北西	弥生土器	鉢	胴片					内:淡黄褐色 外:暗黄褐色	内:横方向のハケ目/外:タタキ
原ノ前遺跡	27	110	R-237	SX-02 北西	弥生土器	鉢	口縁部片		(20.0)			淡黄褐色	ハケ目
原ノ前遺跡	27	111	R-235	SX-02 北西	弥生土器	甕	底部片			(8.0)		黄茶褐色	内:不明/外:ハケ目
原ノ前遺跡	27	112	R-125	SX-02 北西	弥生土器	壺か	底部片			4.2		内:黄褐色 外:淡黄黒褐色	内:ハケ目/外:ナデ
原ノ前遺跡	27	113	R-126	SX-02	黒色土器	椀	底部片			7.4		黒色	
原ノ前遺跡	27	114	R-236	SX-02 北東	弥生土器	鉢	口縁部片		(12.0)			黄褐色	不明
原ノ前遺跡	27	115	R-130	SX-02	弥生土器	鉢	口縁部片		(12.0)			内:淡褐色 外:黄黒灰褐色	ナデ
原ノ前遺跡	27	116	R-123	SX-02	弥生土器	器台	上部片	片岩細砂粒を含む	(13.0)				ナデ

第１表　原ノ前遺跡　出土遺物観察表（3/3）

遺跡名	挿図番号	遺物番号	実測番号	出土遺構	種類	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	色調	焼成	調整 外面	調整 内面	備考
松本遺跡	48	1	R9	SB01	弥生	甕(底部)		9.7		3～8mm大の小石と黒色粒子と砂粒を含む	淡黄暗茶褐色	普通	ハケ目	不明	
松本遺跡	48	2	R7	SB01	弥生	鉢(口縁部片)	13.8			2～3mm大の小石と砂粒を含む	明茶褐色	普通	ハケ目	ナデ	
松本遺跡	48	3	R8	SB01	弥生	鉢(口縁部片)	17.8			2～3mm大の小石が多く混入し、砂粒を含む	淡黄乳褐色	普通	ヨコナデ	ヨコナデ ハケ目	
松本遺跡	48	4	R10	SB02	弥生	壺(底部)		5.4		3mm大の小石と砂粒を含む	淡黄明茶褐色	普通	ハケ目後ナデ	ヨコナデ	一部黒斑あり
松本遺跡	48	5	R13	SB03	弥生	壺(口縁部片)	22.0			2mm大の小石と砂粒を含む	淡黄暗灰色	普通	ヨコナデ後ハケ目	ヨコナデ	袋状口縁
松本遺跡	48	6	R14	SB03	弥生	甕(口縁部片)	28.0			砂粒を含む	淡黄乳褐色	普通	ハケ目	ハケ目	
松本遺跡	48	7	R05	SB03	弥生	甕(ほぼ完形)	12.0		19.6	2～3mm大の小石が多く混入し、砂粒を含む	淡黄乳褐色	普通	ハケ目	ハケ目	一部黒斑あり
松本遺跡	48	8	R12	SD03	弥生	高坏	31.4			2～4mm大の小石が多く混入し、砂粒を含む	淡黄明褐色	普通	ハケ目	不明	
松本遺跡	48	9	R17	SB03	弥生	鉢(ほぼ完形)	13.0	4.9	6.7	2mm大の小石と砂粒を含む	淡黄褐色	普通	ハケ目	ナデ	
松本遺跡	48	10	R16	SB03	弥生	壺(2/3片)	4.2	4.5	10.0	2～3mm大の小石と砂粒を含む	淡黄明茶褐色	普通	ハケ目	ハケ目	
松本遺跡	48	11	R15	SB03	弥生	鉢(口縁部片)	8.0			2～3mm大の小石と砂粒を含む	明茶褐色	普通	不明	ナデ	
松本遺跡	48	12	R11	SB03	弥生	器台(脚部)		11.8		2～3mm大の小石と砂粒を含む	淡黄暗黒褐色	普通	タタキ・指頭痕	不明	
松本遺跡	48	13	R18	SB04	弥生	甕(口縁部片)	30.0			3mm～1cm大の小石と砂粒を含む	淡黄乳褐色	普通	ハケ目	不明	口縁部刻み目・頸部に三角突帯
松本遺跡	48	14	R20	SB04	弥生	甕(底部片)		7.5		2mm大の小石と砂粒を含む	淡黄黒茶褐色	普通	ハケ目	不明	
松本遺跡	48	15	R19	SB04	弥生	鉢(口縁部片)	14.0			砂粒を含む	淡黄乳褐色	普通	ハケ目後ヨコナデ	ヨコナデ	
松本遺跡	48	16	R21	SB04	弥生	器台				2～3mm大の小石と砂粒を含む	淡黄明褐色	普通	ヨコナデ	ナデ	
松本遺跡	48	17	R4	SB11	土師器	壺				2mm大の小石と砂粒を含む	明茶褐色	普通	ハケ目・ヘラ削り	ハケ目	底部に黒斑、外面に一部黒斑あり
松本遺跡	48	18	R1	SB11	土師器	埦(完形)	9.1		4.8	2～3mm大の小石と砂粒を含む	淡黄黒灰色	普通	ヘラ削り	ナデ	黒斑あり
松本遺跡	49	19	R24	SB13	土師器	壺(口縁部片)	22.0			2～3mm大の小石と砂粒を含む	淡黄明褐色	普通	一部波状紋あり	不明	
松本遺跡	49	20	R22	SB14	土師器	甕(口縁部片)	18.0			砂粒を含む	淡黄暗茶褐色	普通	ハケ目	ハケ目	
松本遺跡	49	21	R06	SX01	弥生	壺(ほぼ完形)	13.9	6.8	21.1	赤色粒子と2mm大の小石と砂粒を含む	淡黄暗茶褐色	普通	ハケ目	ハケ目	胴部に黒斑、外面に一部赤色顔料あり
松本遺跡	49	22	R02	SX01	弥生	器台(脚部1/3)	14.0			2～4mm大の小石と砂粒を含む	淡黄褐色	普通	ハケ目	ナデ ヘラ削り ハケ目	
松本遺跡	49	23	R23	P26	弥生	甕(口縁部・胴部)	26.0			砂粒を含む	淡黄暗茶褐色	普通	縦方向のハケ目	口縁部：横方向のハケ目・ハケ目に一部ハケ目	口縁部に刻み目
松本遺跡	49	24	R03	P61	弥生	器台(1/2)	12.5	15.0	17.2	2～3mm大の小石が多く混入し、砂粒を含む	淡黄暗茶灰褐色	普通	縦方向のハケ目	縦方向のハケ目	圧痕、横方向のハケ目

表2　松本遺跡　ＳＢ・ＳＸ・ピット出土土器観察表

遺跡名	挿図番号	遺物番号	実測番号	出土遺構	器種	材質	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考
松本遺跡	50	1	R06	SB03	石包丁	片岩	4.6	11.1	0.8	62.0	
松本遺跡	50	2	R05	SB04	石包丁	片岩	5.8	11.6	1.0	90.6	
松本遺跡	50	3	R03	SB04	石包丁	片岩	6.1	9.6	0.9	78.7	
松本遺跡	50	4	R04	SB04	石包丁	片岩	4.8	8.3	0.6	35.2	
松本遺跡	50	5	R02	SB04	石包丁	片岩	4.8	5.5	0.7	30.2	未製品
松本遺跡	51	6	R07	SB04	すり石	花崗岩	12.1	12.5	5.4	1030.0	
松本遺跡	51	7	R08	SB04	すり石	花崗岩	8.0	7.6	4.6	390.0	
松本遺跡	51	8	R01	SB04	紡石	石英斑岩	14.4	13.7	8.0	2005.0	

表3　松本遺跡　ＳＢ出土石製品観察表

図　版

図版１

原ノ前遺跡　調査区　北から

図版２

（１）

調査前
調査区北側から

（２）

調査前
調査区南東から

（３）

１・２・３号竪穴
住居　南から

図版３

（１）
４号竪穴住居
西から

（２）
５・６・７号竪穴
住居
南から

（３）
５号竪穴住居
遺物出土状況

（１）
５号竪穴住居
遺物出土状況

（２）
５竪穴住居
北から

（３）
７号竪穴住居
南から

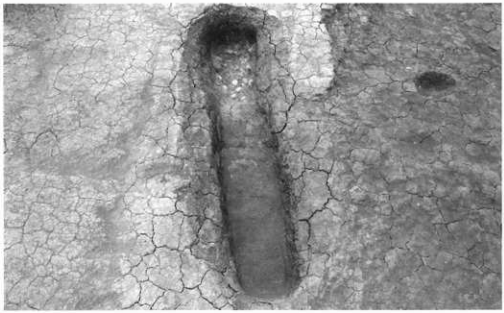
図版５

（１）
８号竪穴住居
南から

（２）
９号竪穴住居
南東から

（３）
９号竪穴住居ベッド状遺構

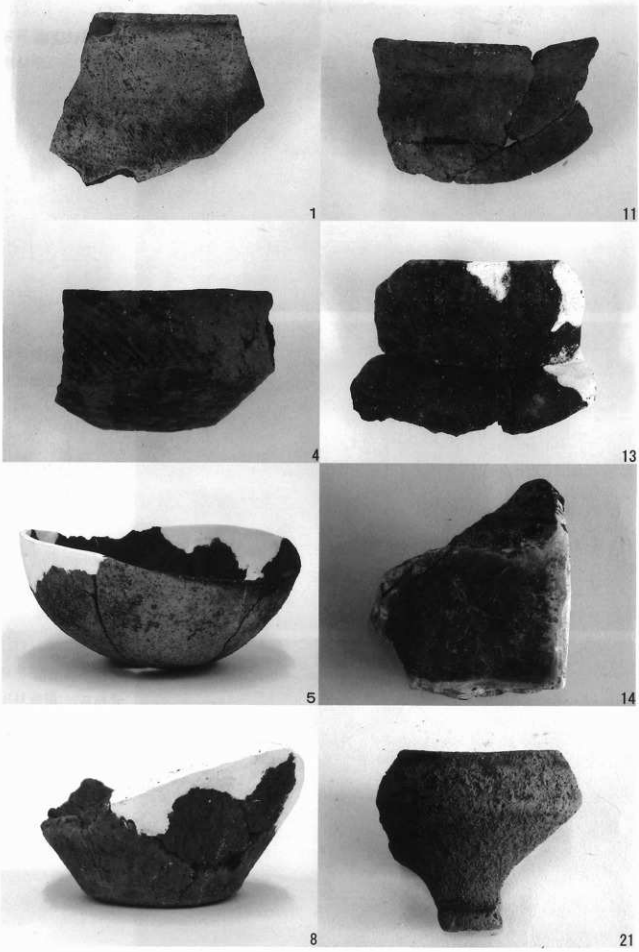
（１）
１号溝状遺構
西から

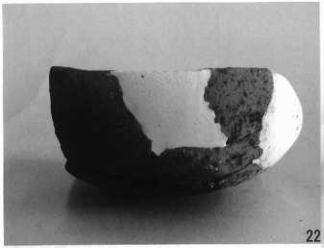


（２）
１号不明遺構

（３）
２号不明遺構
北から

図版 7




22

33

29

34

30

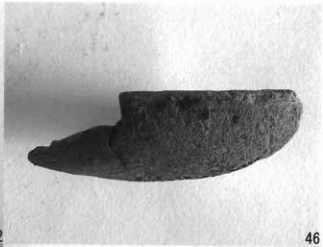
35

31

38

図版９

42


46

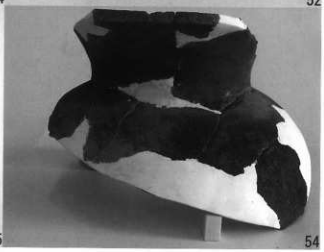
43

50

44

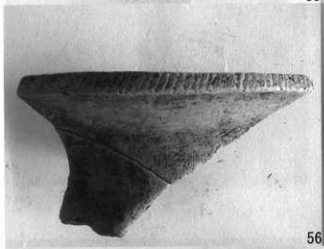
52

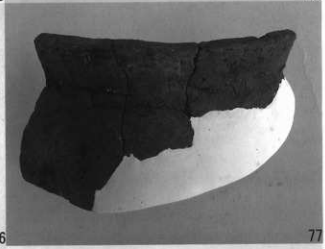
45


54

55

76


56


77

61

79

62

86

（1）松本遺跡　全景

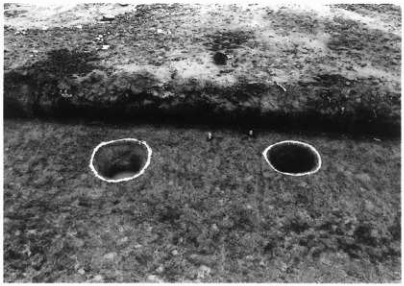
（2）松本遺跡　1，2号竪穴住居

（3）松本遺跡　3号竪穴住居，1号不明遺構

（4）松本遺跡　4号竪穴住居

（1）松本遺跡　5号掘立柱建物

（3）松本遺跡　7号掘立柱建物



（2）松本遺跡　6号掘立柱建物

（4）松本遺跡　8号（手前），16号掘立柱建物

（1）松本遺跡　9，10号掘立柱建物

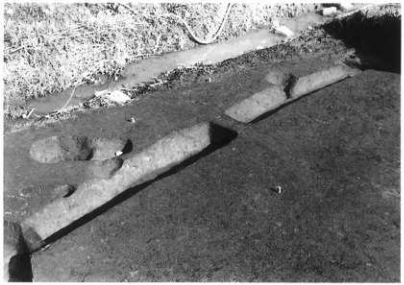
（2）松本遺跡　10～12号掘立柱建物（南東より）

（3）松本遺跡　10，11号掘立柱建物

（4）松本遺跡　15号掘立柱建物

（1）松本遺跡　１７号掘立柱建物

（3）松本遺跡　１号不明遺構



（2）松本遺跡　１号溝状遺構（南西より）

（4）松本遺跡　１号不明遺構　遺物出土状況

図版 14

（1）松本遺跡　1号溝状遺構　土層

（3）松本遺跡　1号不明遺構　土層B－B´

（2）松本遺跡　1号不明遺構　土層A－A´

（4）松本遺跡　1号不明遺構　土層C－C´

1

2

3

4

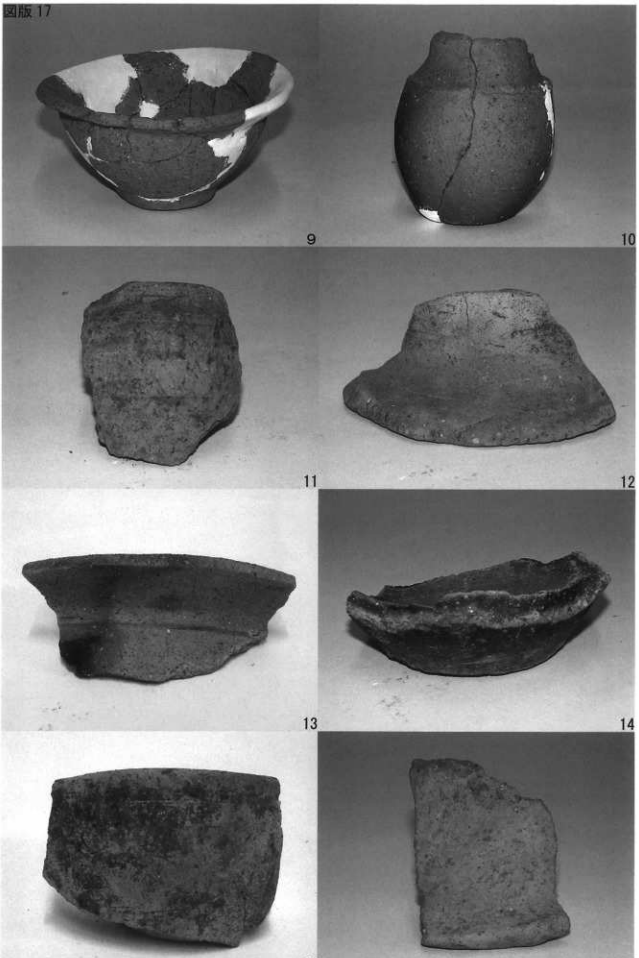
5

6

7

8

図版 17



17

18

19

20

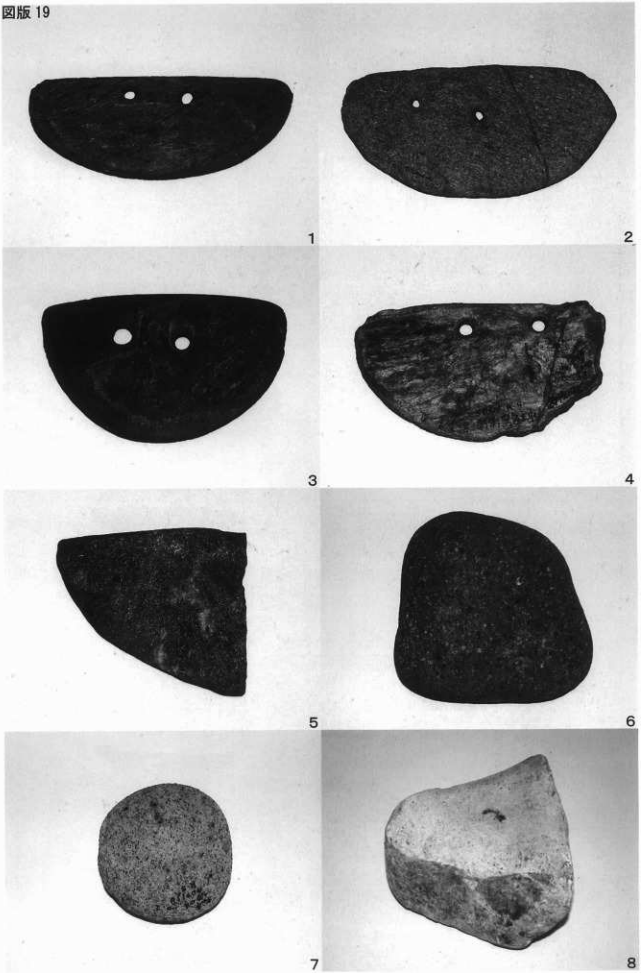
21

22

23

24

図版 19



報告書抄録

ふりがな	
書名	八女市内遺跡群８
副書名	福岡県八女市新庄・国武所在遺跡の調査報告書
巻次	
シリーズ名	八女市文化財調査報告書
シリーズ番号	第112集
編著者名	中川　寿賀子・永田　率
編集機関	八女市教育委員会
所在地	８３４－８５８５　福岡県八女市本町６４７　ＴＥＬ　０９４３－２３－１９８２
発行年月日	西暦　2016年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
平成元年度調査 原ノ前遺跡	福岡県 八女市新庄	40210	407017-08	33° 11′ 37″	130° 31′ 50″	1990. 04. 11 ～1990. 05. 29	500㎡	圃場整備
松本遺跡	福岡県 八女市国武		407001-05	33° 12′ 8″	130° 32′ 32″	1989. 12. 01 ～1990. 01. 12	640㎡	圃場整備

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
原ノ前遺跡	集落	弥生・古墳	・竪穴住居 ・溝状遺構 ・土坑	弥生土器・土師器・石製品	
松本遺跡	集落	弥生・古墳	・竪穴住居 ・掘立柱建物 ・不明遺構 ・溝状遺構	弥生土器・土師器・石製品	

八女市内遺跡群8

八女市文化財調査報告書　第112集

2016

八女市教育委員会

八女市内遺跡群8

八女市文化財調査報告書　第112集

平成28年3月31日

発行　八女市教育委員会
八女市本町647

印刷　橋爪印刷
八女市吉田1899-1